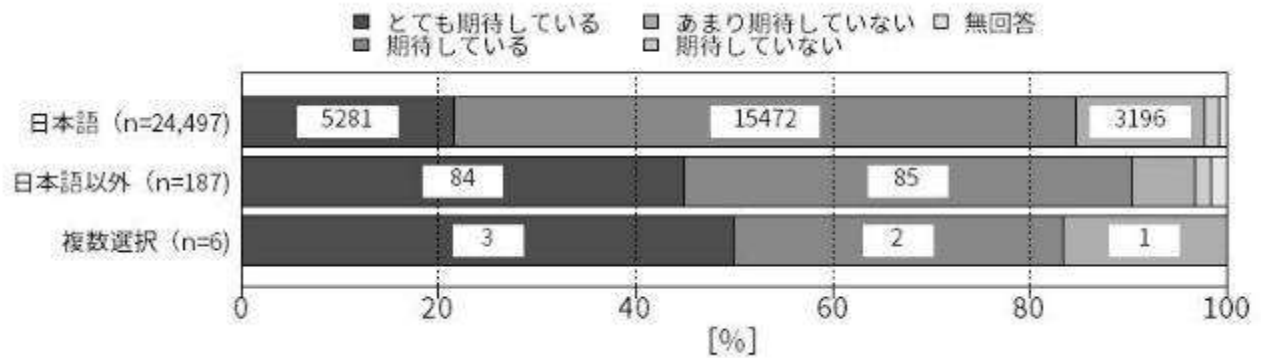


日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
（保護者票 問 2 × 保護者票 問 14(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

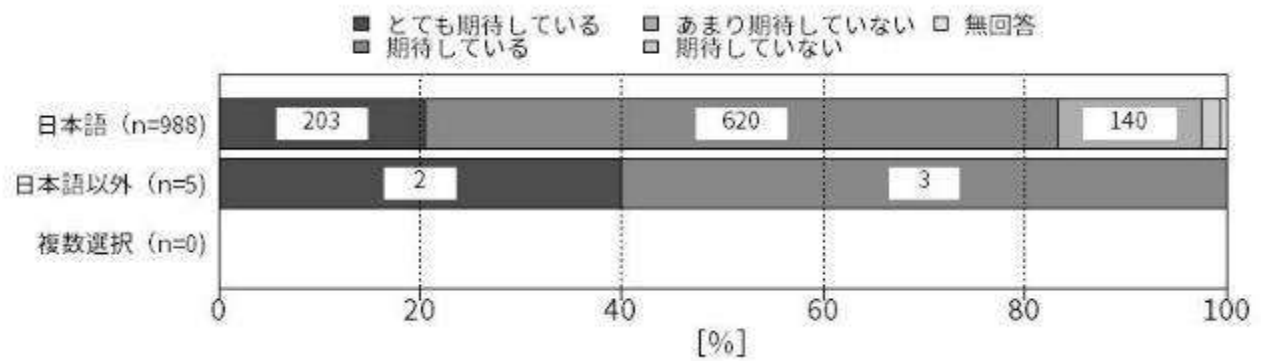
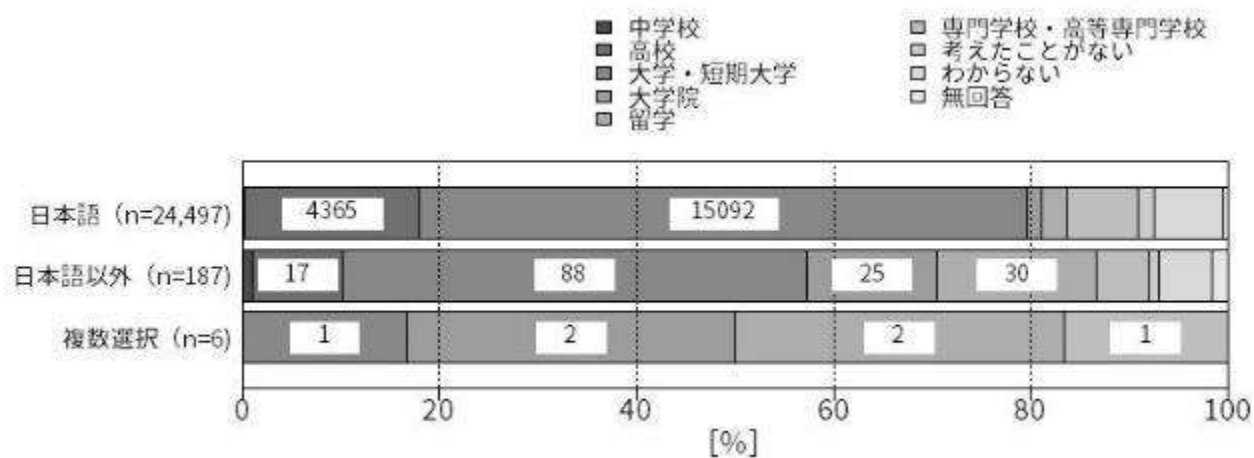


図 274. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもへの将来の期待）

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

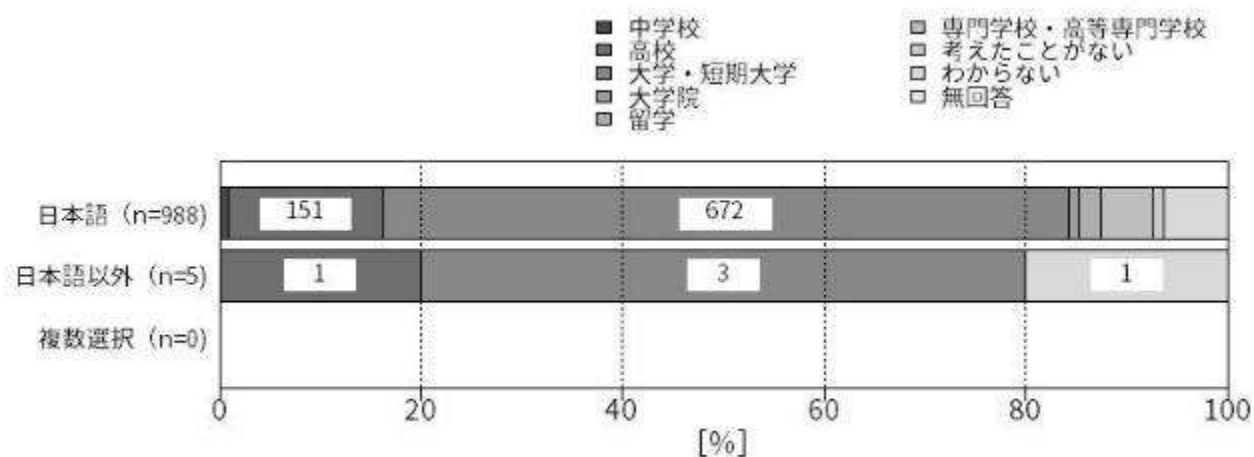


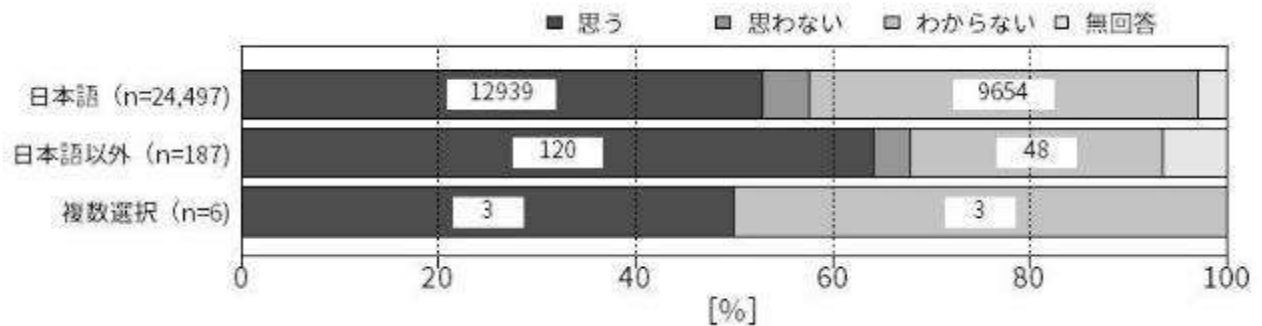
図 275. 日常生活でよく使う言葉別に見た、希望する進学先

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成予測

(保護者票 問2 × 保護者票 問16)

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

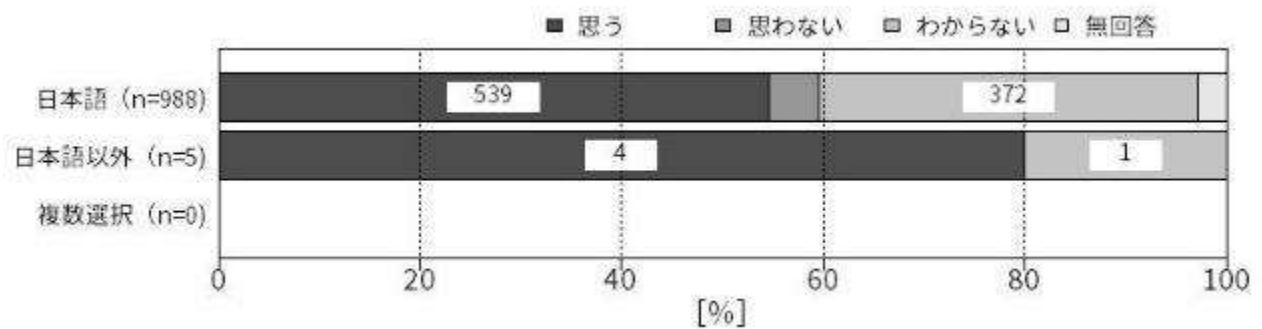
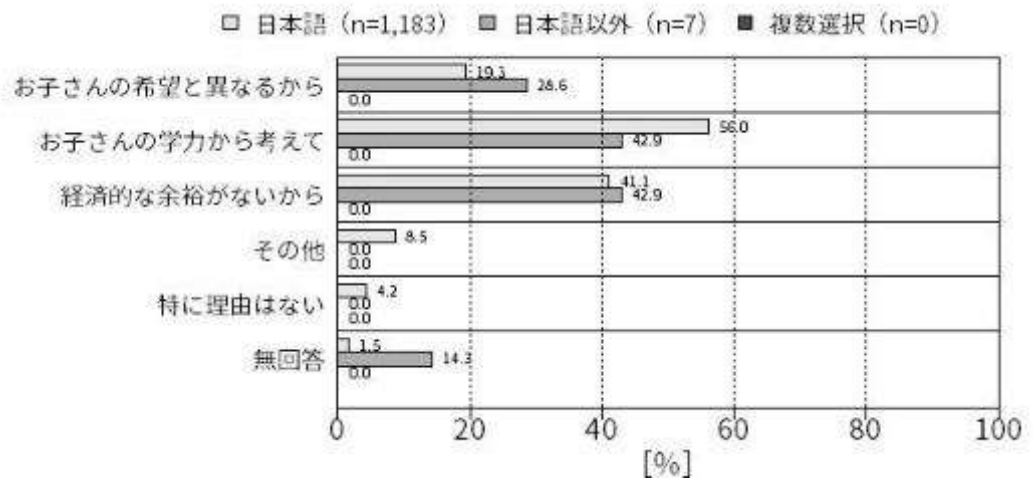


図 276. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成予測

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由
(保護者票 問2 × 保護者票 問17)

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

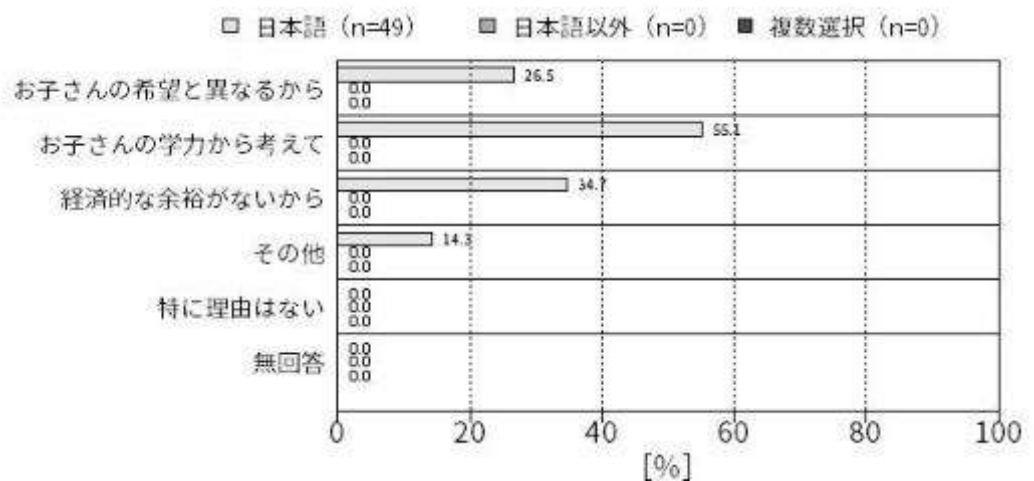
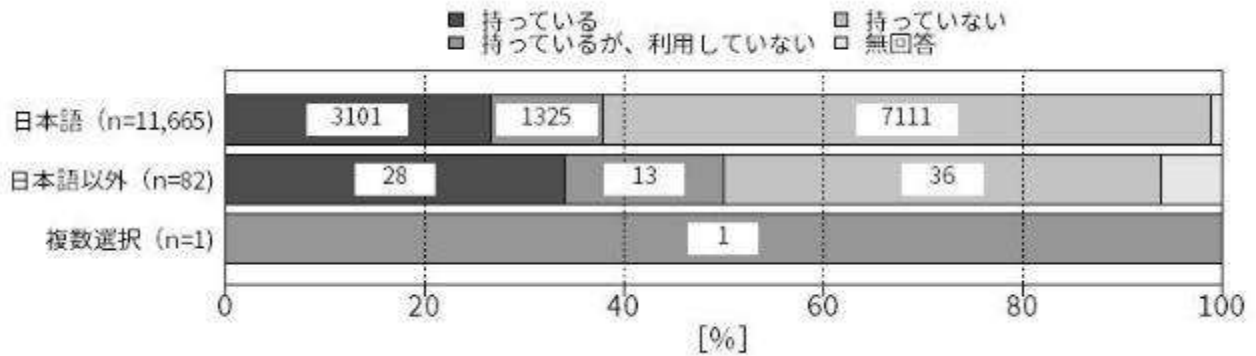


図 277. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由

日本語を母語としない群は回答がなかったため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードの所持状況
 (保護者票 問2 × 保護者票 問18)

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

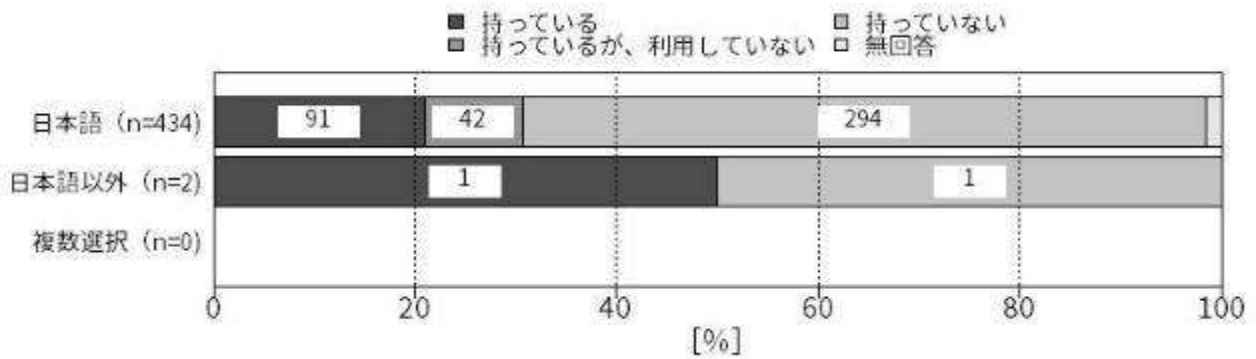
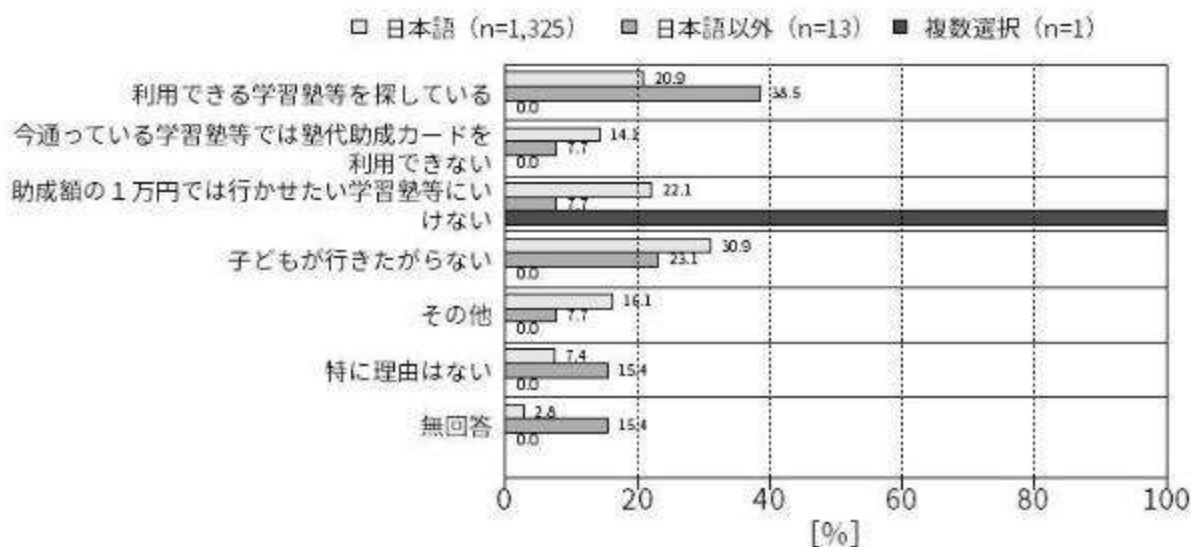


図 278. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードの所持状況

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由
(保護者票 問2 × 保護者票 問19)

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

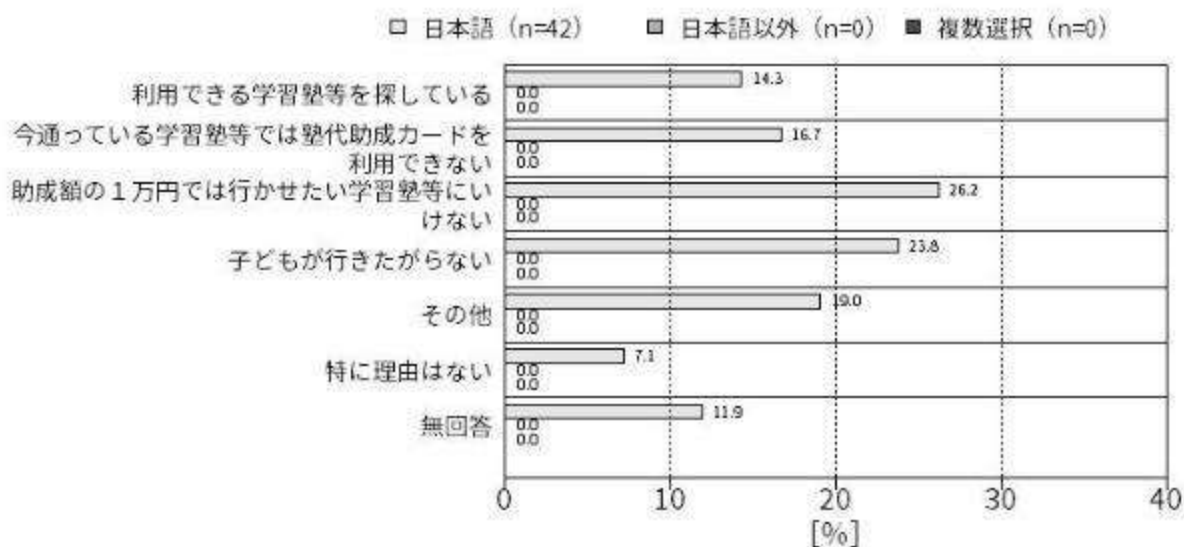
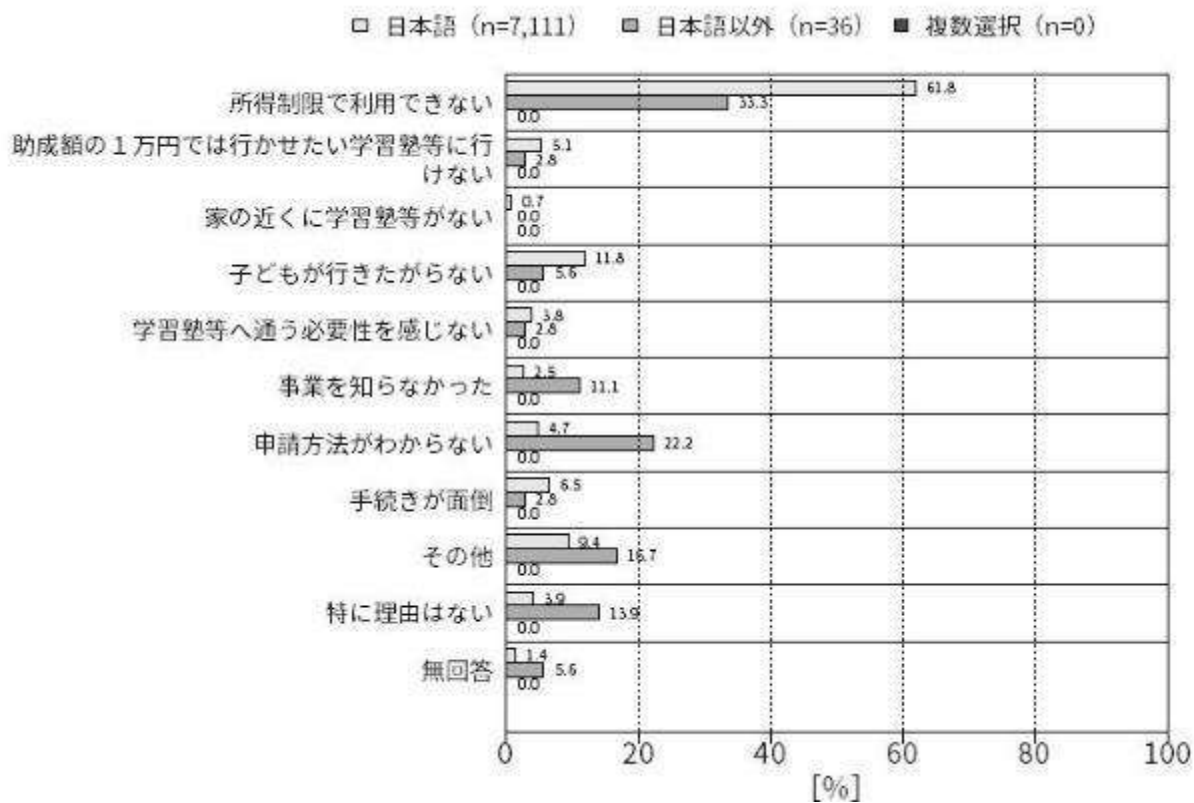


図 279. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由
 (保護者票 問2 × 保護者票 問20)

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

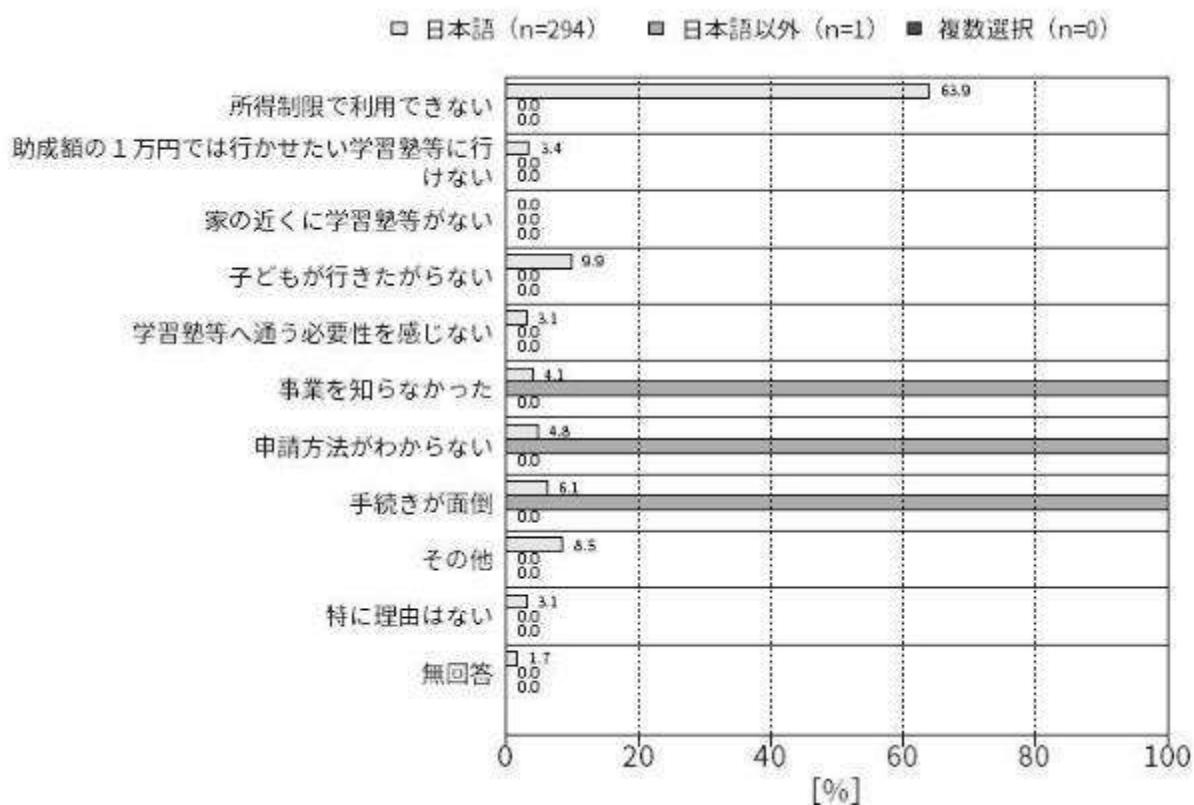


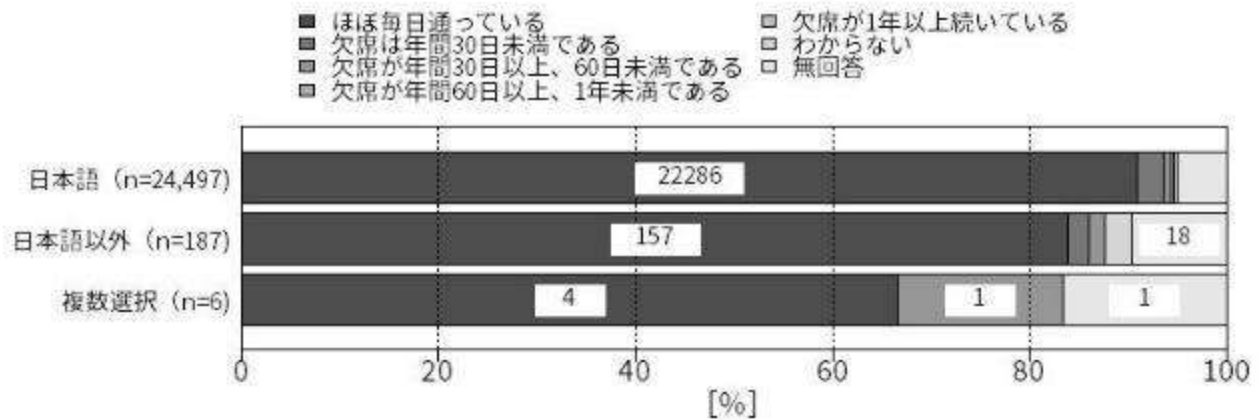
図 280. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

(保護者票 問2 × 保護者票 問21)

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

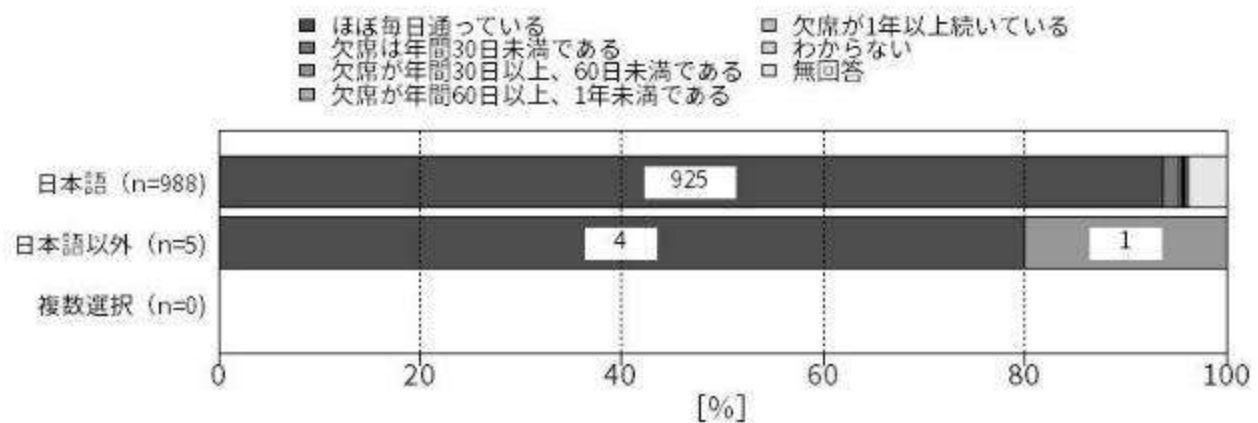


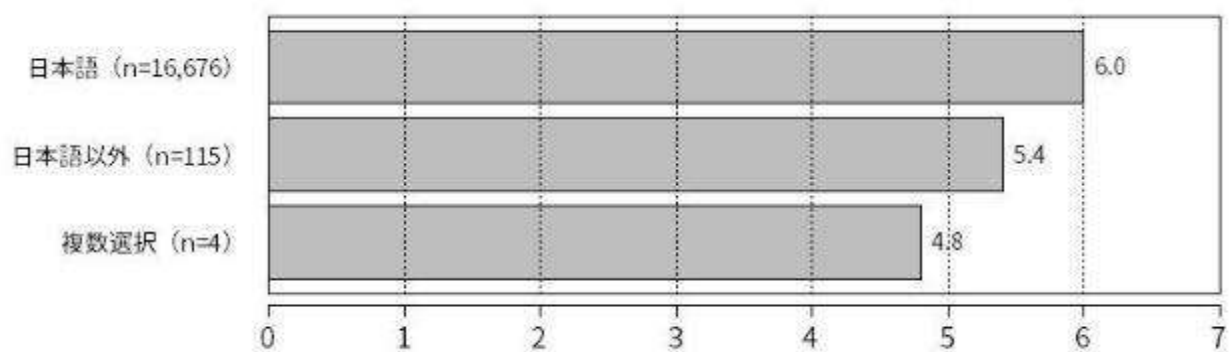
図 281. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点
(保護者票 問 2 × 保護者票 問 23①～⑦)

※「支えてくれる人得点」については図 198 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

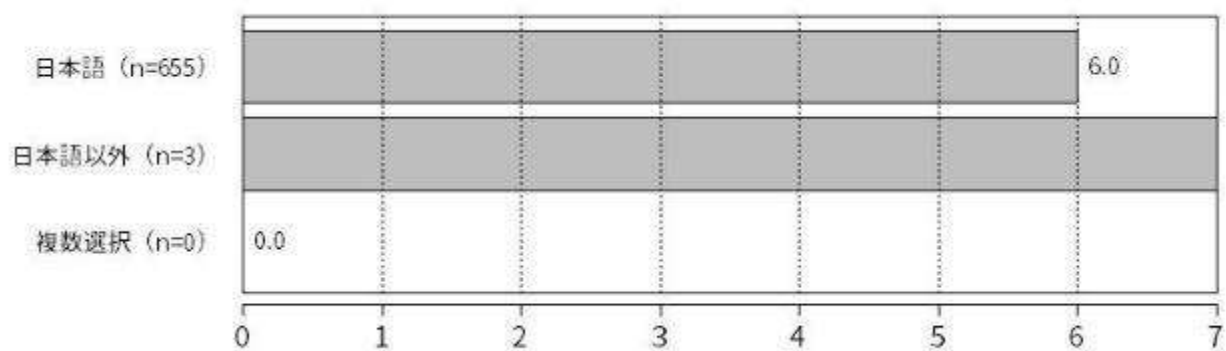


図 282. 日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点

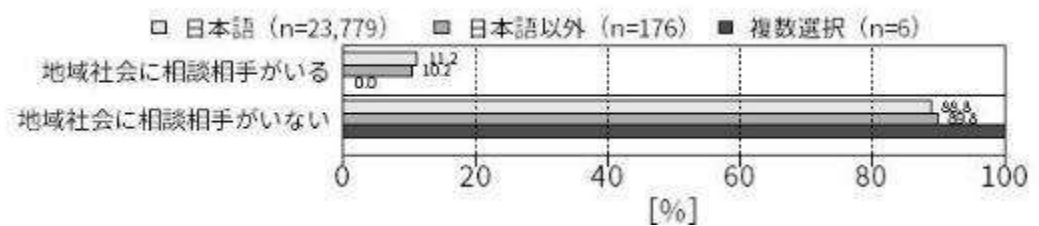
日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

(保護者票 問2 × 保護者票 問24)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問いに対し、「学校の先生やスクールカウンセラー」「子育て講座（小・中学生を持つ保護者を対象）等を担当するリーダーや職員等」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体」「民間のカウンセラー・電話相談」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪市24区>



<大阪市都島区>

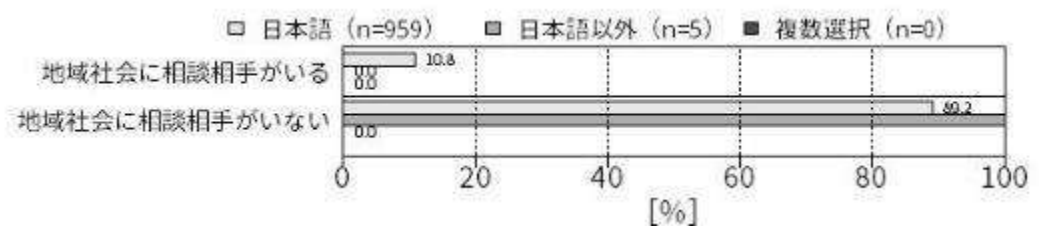


図 283. 日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

日本語を母語としない群は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

<家庭生活・学習に関する考察>

困窮度が高まるにつれ、おうちの大人の人と一緒に朝食を取る頻度が下がり、困窮度Ⅰ群では、「まったく」「ほとんどない」合わせると35.5%（大阪市全体：35.3%）が朝食を一緒にとっていない。同様に、おうちの大人に宿題をみてもらう頻度、大人と文化活動をする頻度は下がり、宿題を見てもらわない子どもが38.5%（大阪市全体35.9%）、文化活動をともにすることがまったくない子どもが39.4%（大阪市全体40.0%）、ほとんどないと合わせると75.9%（大阪市全体：78.1%）を占める。

勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、30分以内である割合が高くなり、読書時間も同様の傾向で、困窮度Ⅰ群では全くしない人は34.6%（大阪市全体：37.6%）を占める。これらの結果として学習理解度は、困窮度Ⅰ群では、ほとんどわからない・あまりわからない人が28.8%（大阪市全体：23.4%）になる。

同じ時刻に起床しない、朝食を毎日とらないなど生活習慣が確立していない子どものほうが勉強や読書を「まったくしない」傾向がある。これらの生活習慣は、困窮度が高くなると確立していない傾向がみられた。

子どもの将来に関して、困窮度Ⅰ群では、19.0%（大阪市全体：17.9%）の保護者があまり期待していない。子ども自身の進学希望と保護者の希望では、困窮度が高まるにつれ、「中学校」「高校」と回答した子どもが増え、困窮度Ⅰ群では、子どもが28.8%（大阪市全体：25.4%）、保護者が34.3%（大阪市全体：33.5%）となる。

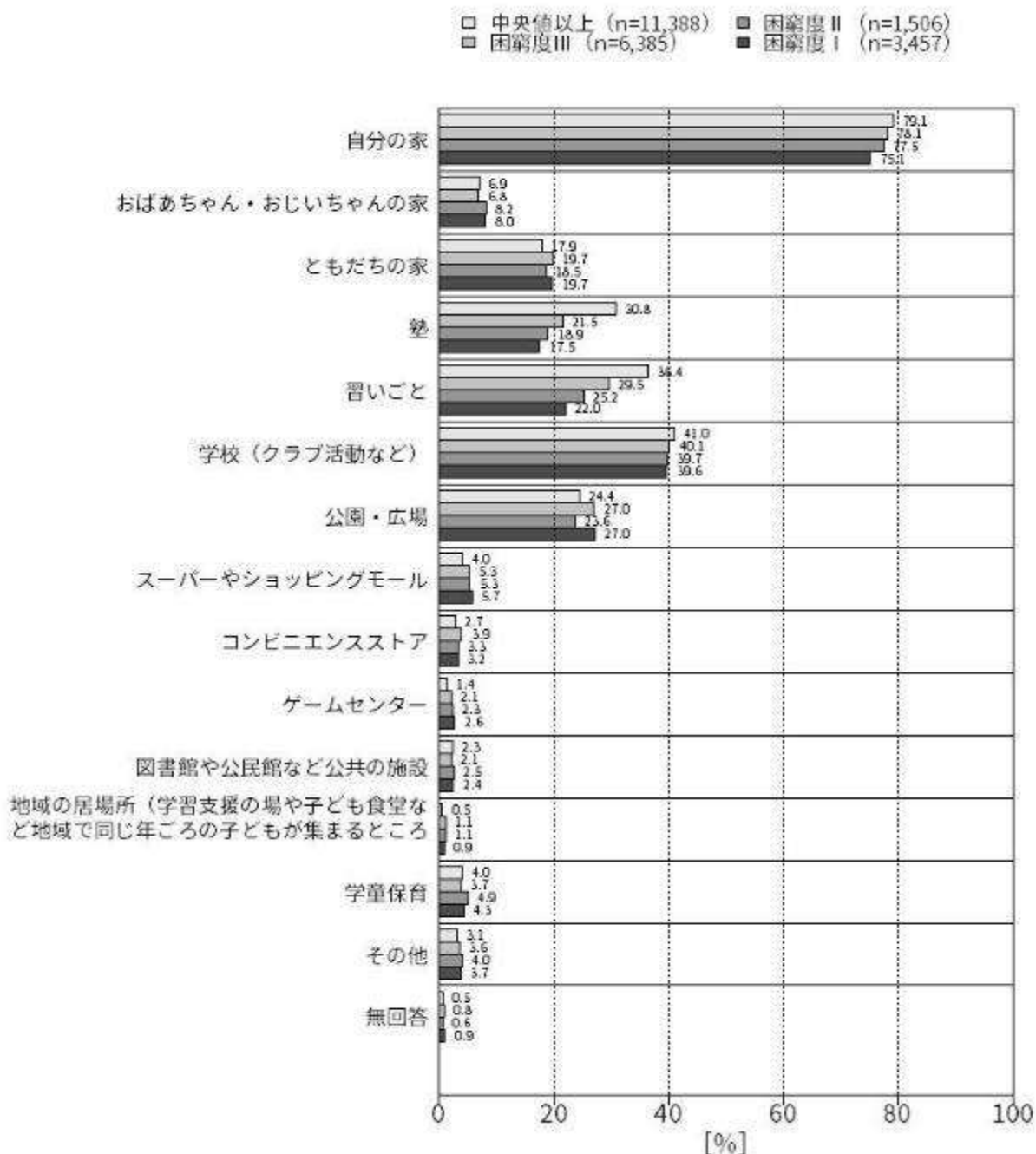
困窮度別に学校への遅刻を見ると、困窮度が高まるにつれ、週に1回以上遅刻をする子どもの割合が増え、困窮度Ⅰ群では、23.0%（大阪市全体：18.4%）である。困窮度別に子どもの通学状況を見ると、困窮度Ⅰ群では「ほぼ毎日通っている」が89.5%（大阪市全体：88.1%）、週1回以上遅刻する子どもは、遅刻をしない子どもと比べて、おうちの大人と朝食をほとんど毎日とっているのが41.5%（大阪市全体：39.7%）、夕食で75.6%（大阪市全体：75.2%）、学校でのできごとについて話すこと、社会のできごとを話すこと、文化活動をする、などが低くなっている。

週1回以上遅刻する子どもは進学希望が「中学校」「高校」の割合が高く17.8%（大阪市全体：22.3%）、遅刻はしない子どもは、「大学・短期大学」が41.4%（大阪市全体：39.8%）であった。

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後に過ごす場所（子ども票 問 13）

<大阪市 24 区>



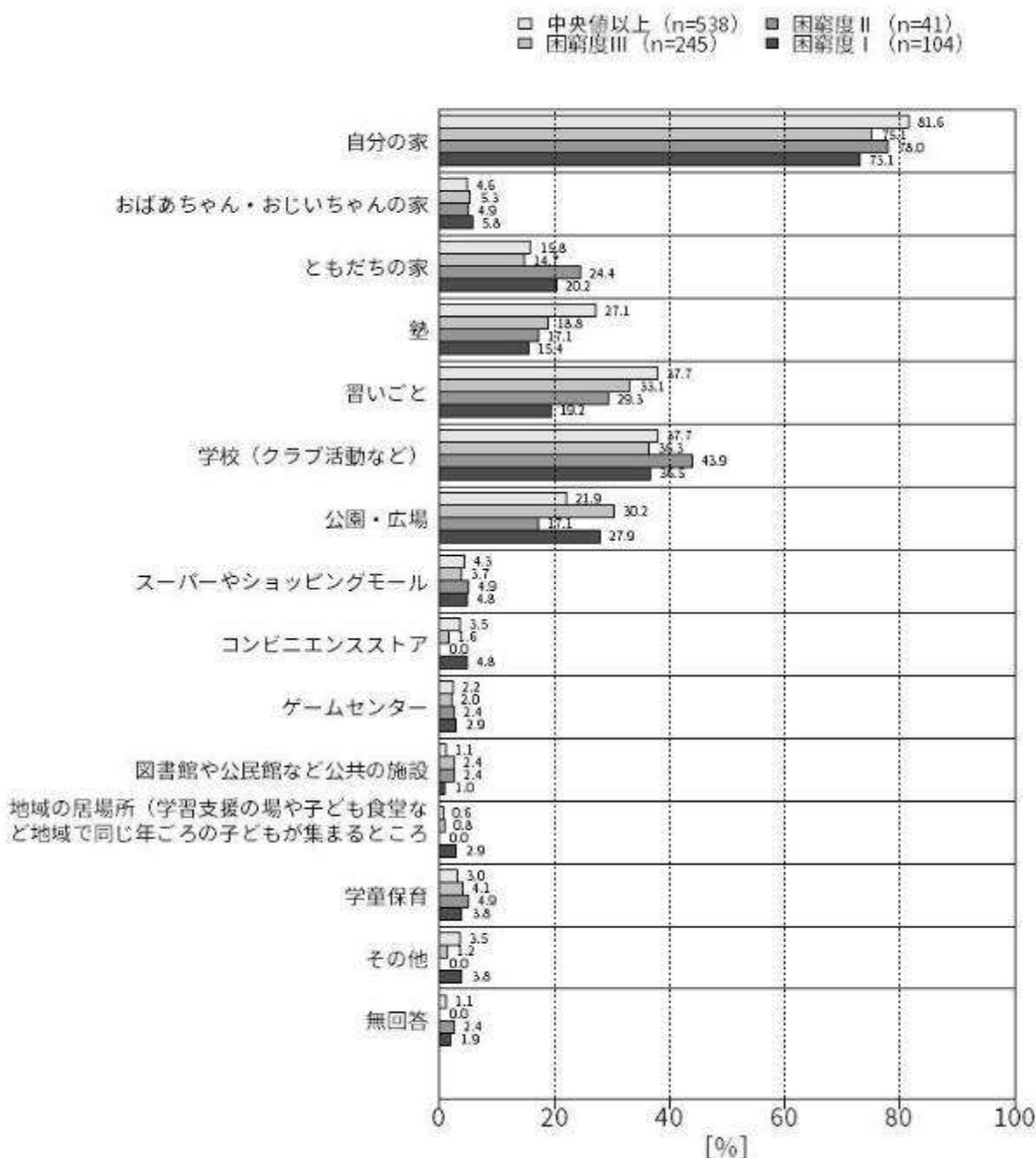
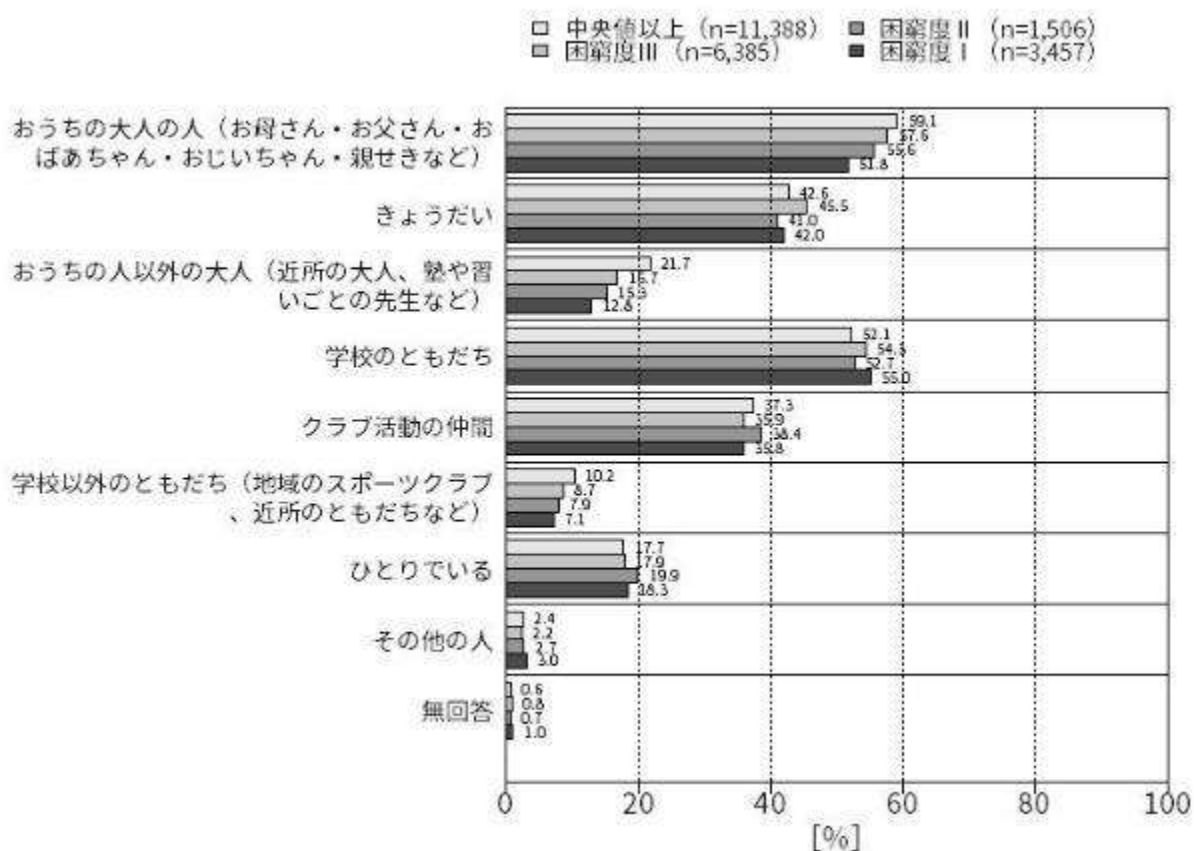


図 284. 困窮度別に見た、放課後に過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まるところ」2.9%（中央値以上群に対して、4.8倍）、「コンビニエンスストア」4.8%（1.4倍）、「ゲームセンター」2.9%（1.3倍）、となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また、中央値以上群では「習いごと」37.7%（困窮度Ⅰ群に対して、2倍）、「塾」27.1%（1.8倍）、「自分の家」81.6%（1.1倍）が高かった。

困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人（子ども票 問 12）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

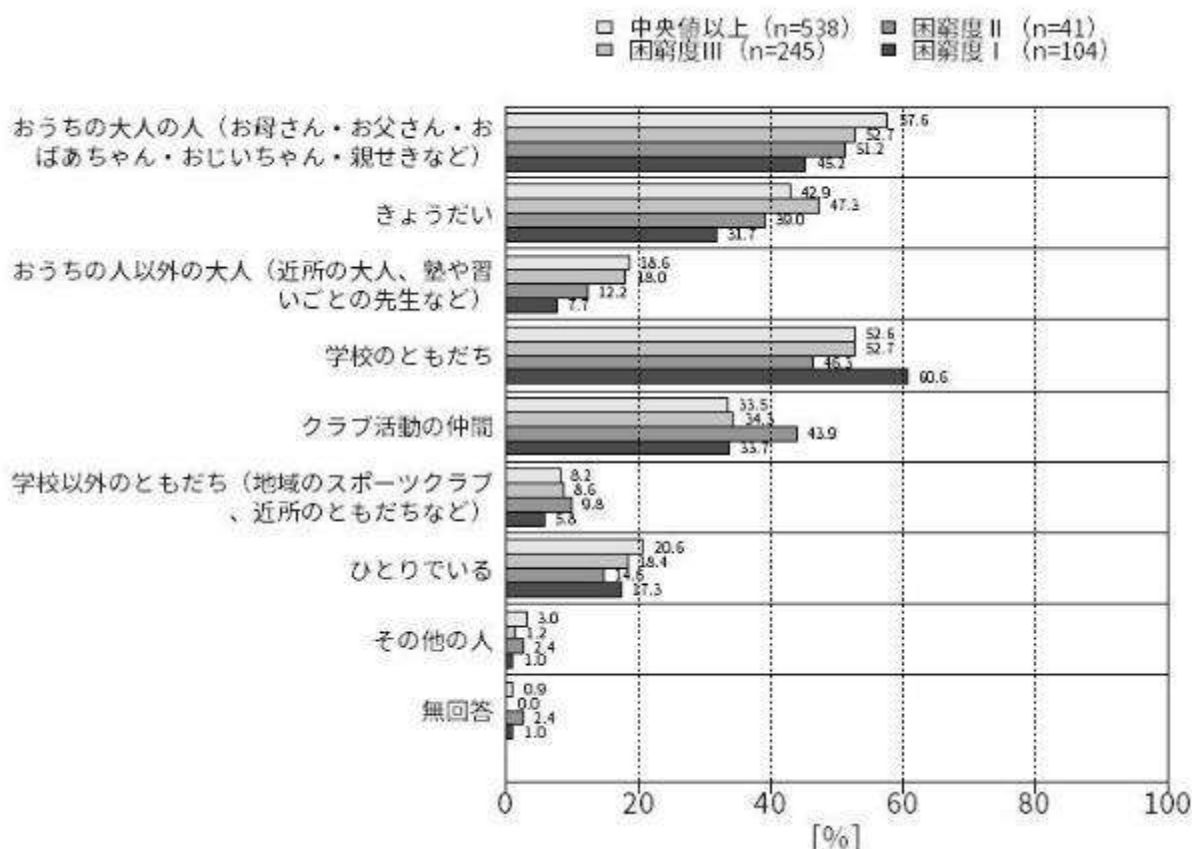
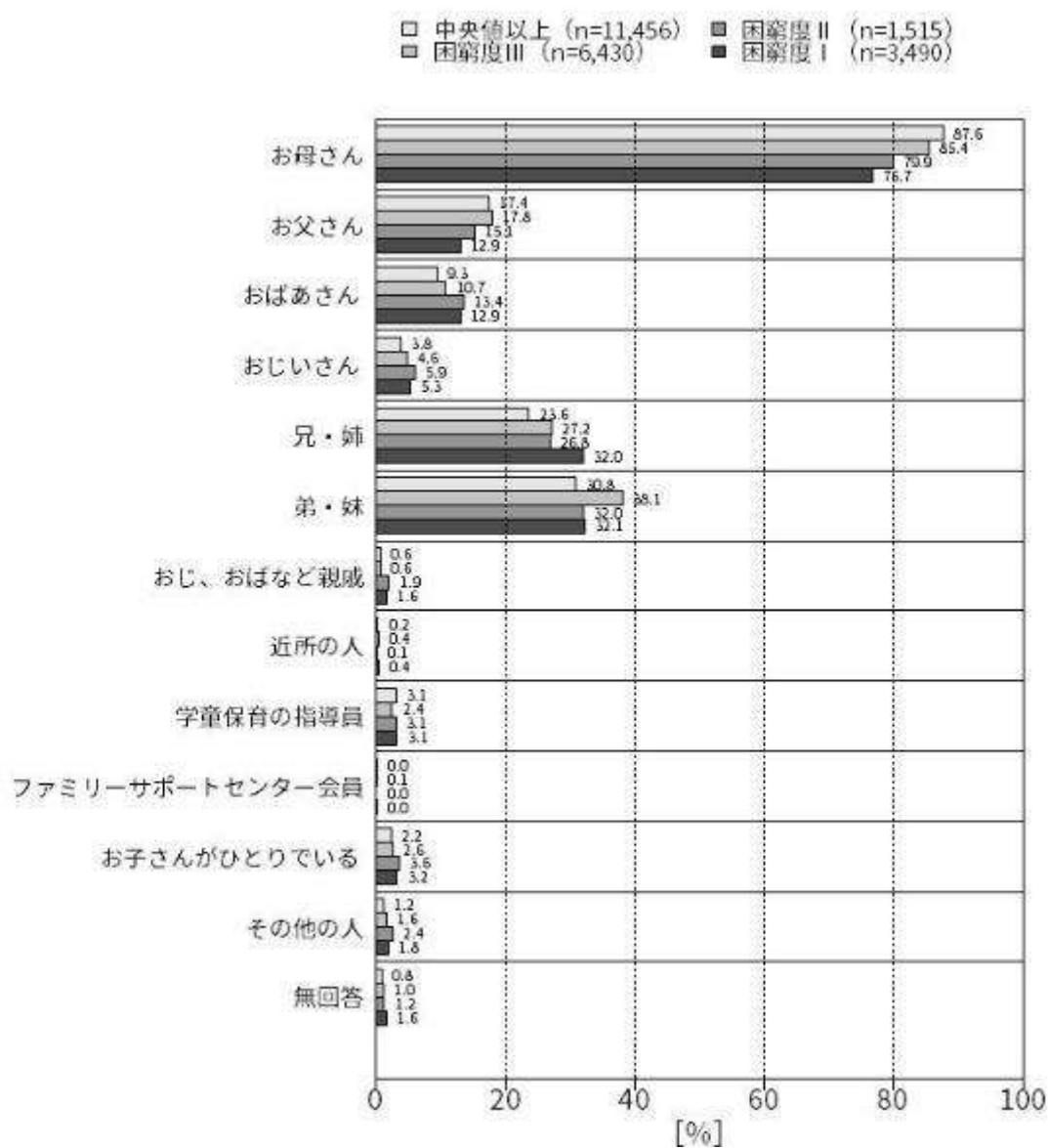


図 285. 困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「学校のともだち」60.6%（中央値以上群に対して、1.2倍）、中央値以上群では「その他の人」3%（困窮度Ⅰ群に対して、3倍）、「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」18.6%（2.4倍）、「学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）」8.2%（1.4倍）が高かった。

困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人（保護者票 問 11）

<大阪市 24 区>



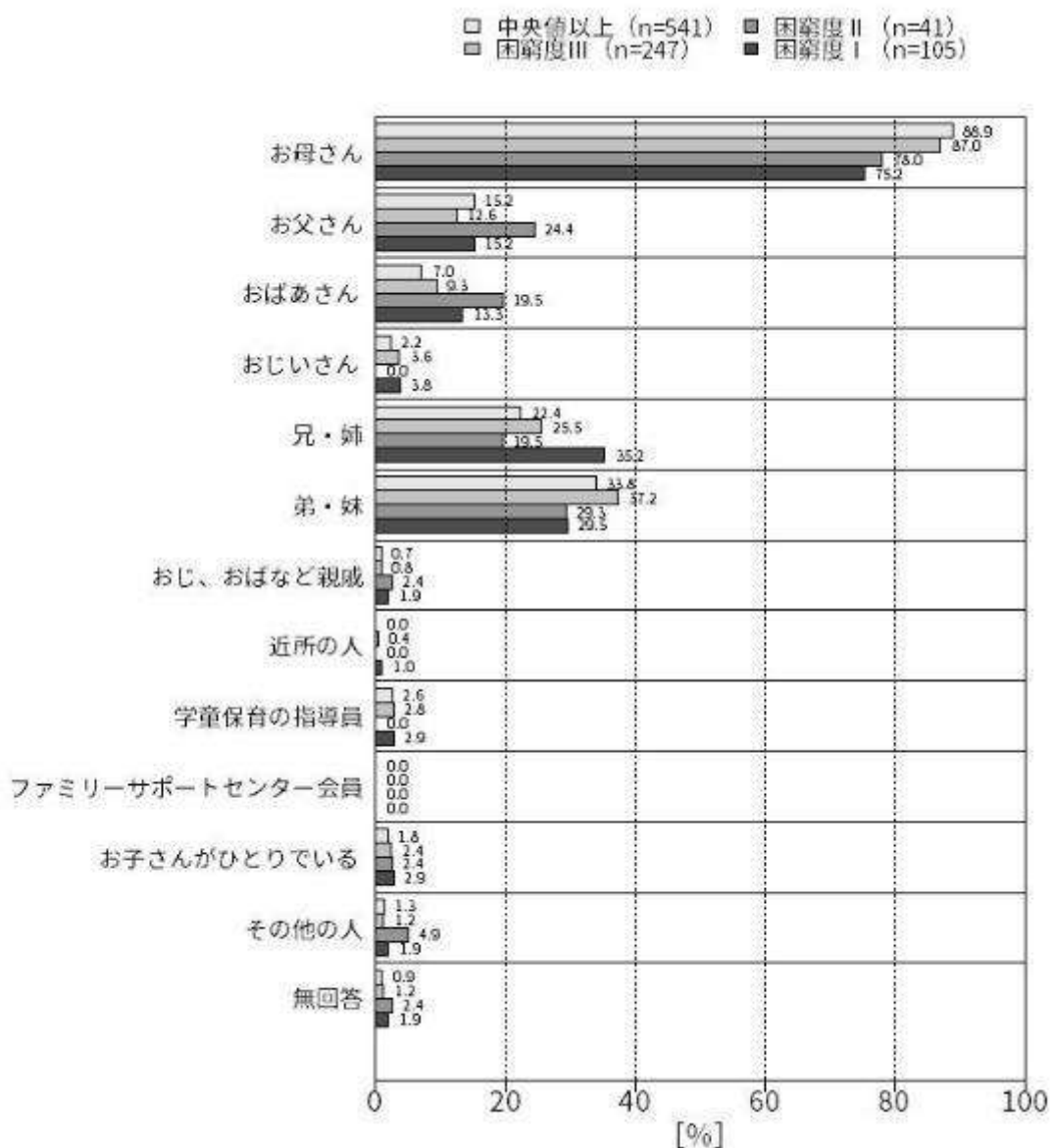
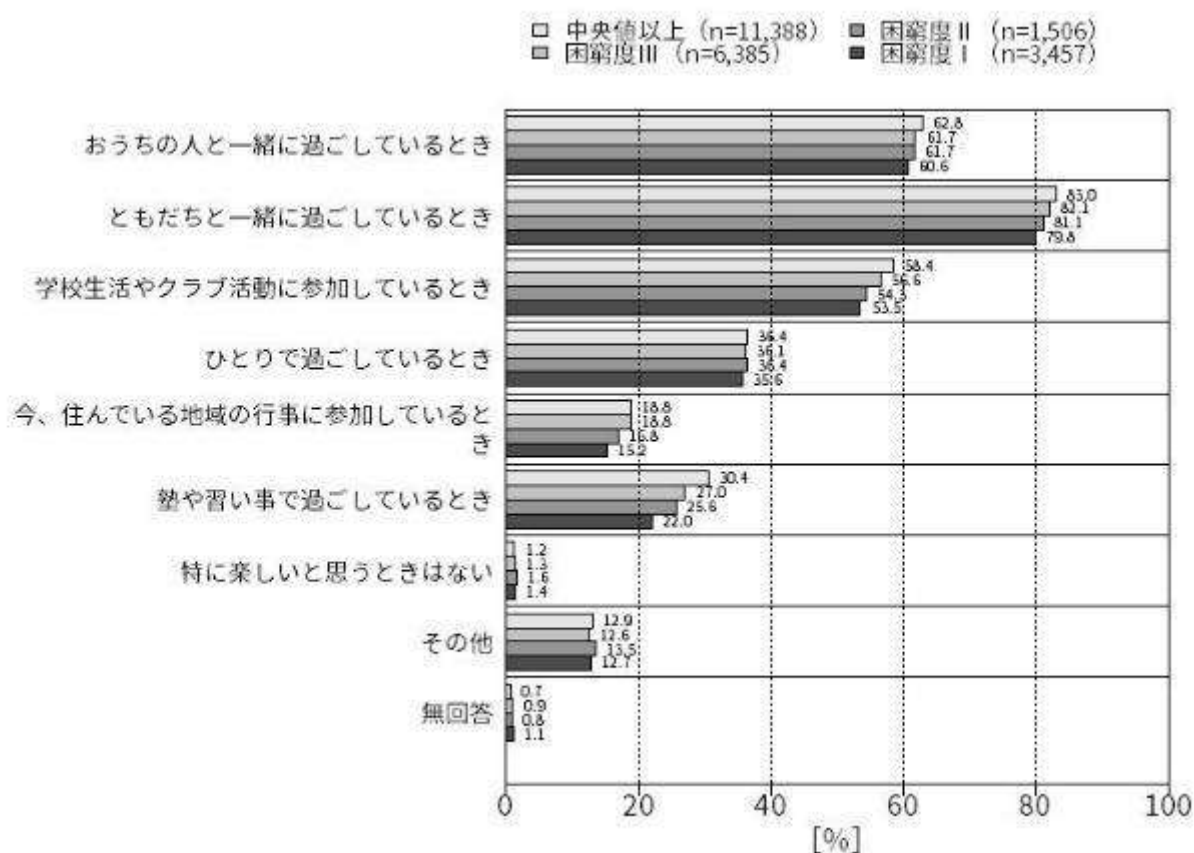


図 286. 困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

困窮度別に保護者が放課後に子どもと過ごす時間が長い人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「おじ、おばなど親戚」1.9%（中央値以上群に対して、2.7倍）、「おばあさん」13.3%（1.9倍）、「おじいさん」3.8%（1.7倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票 問 11）

<大阪市 24 区>



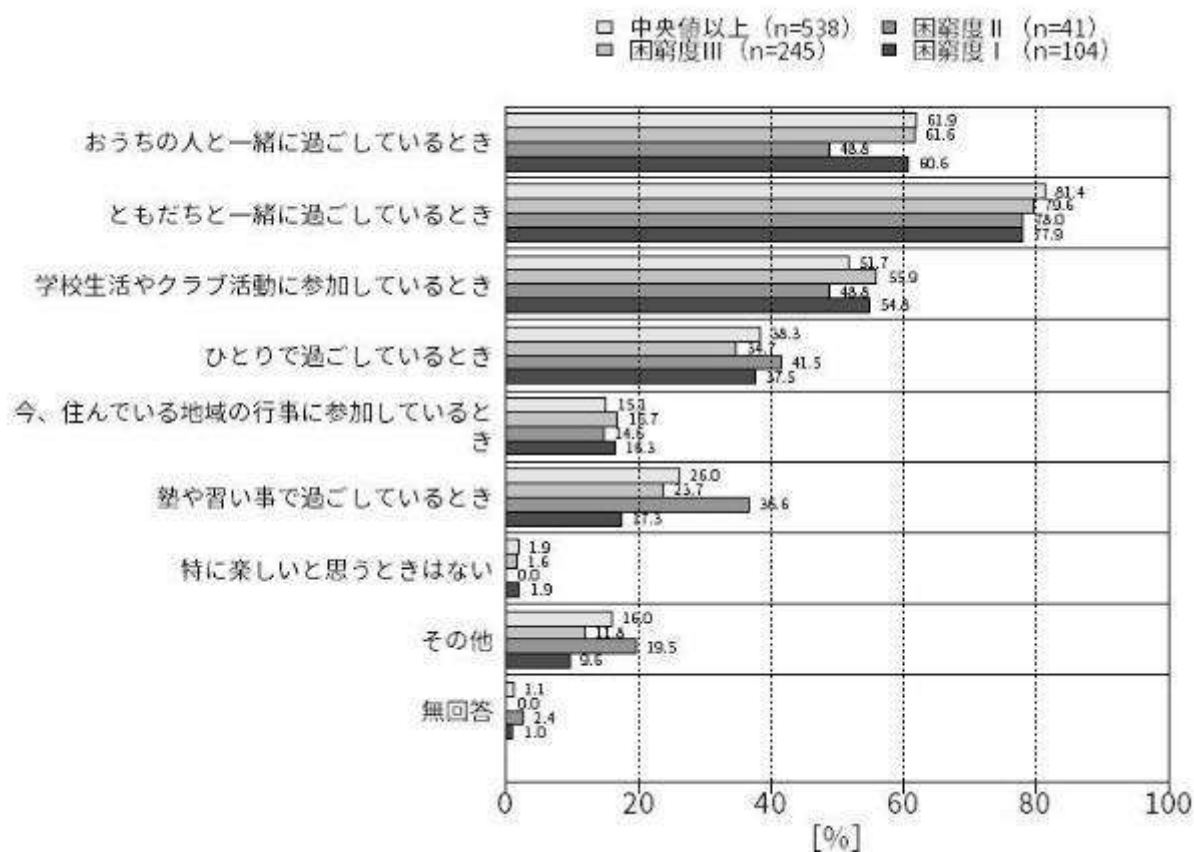
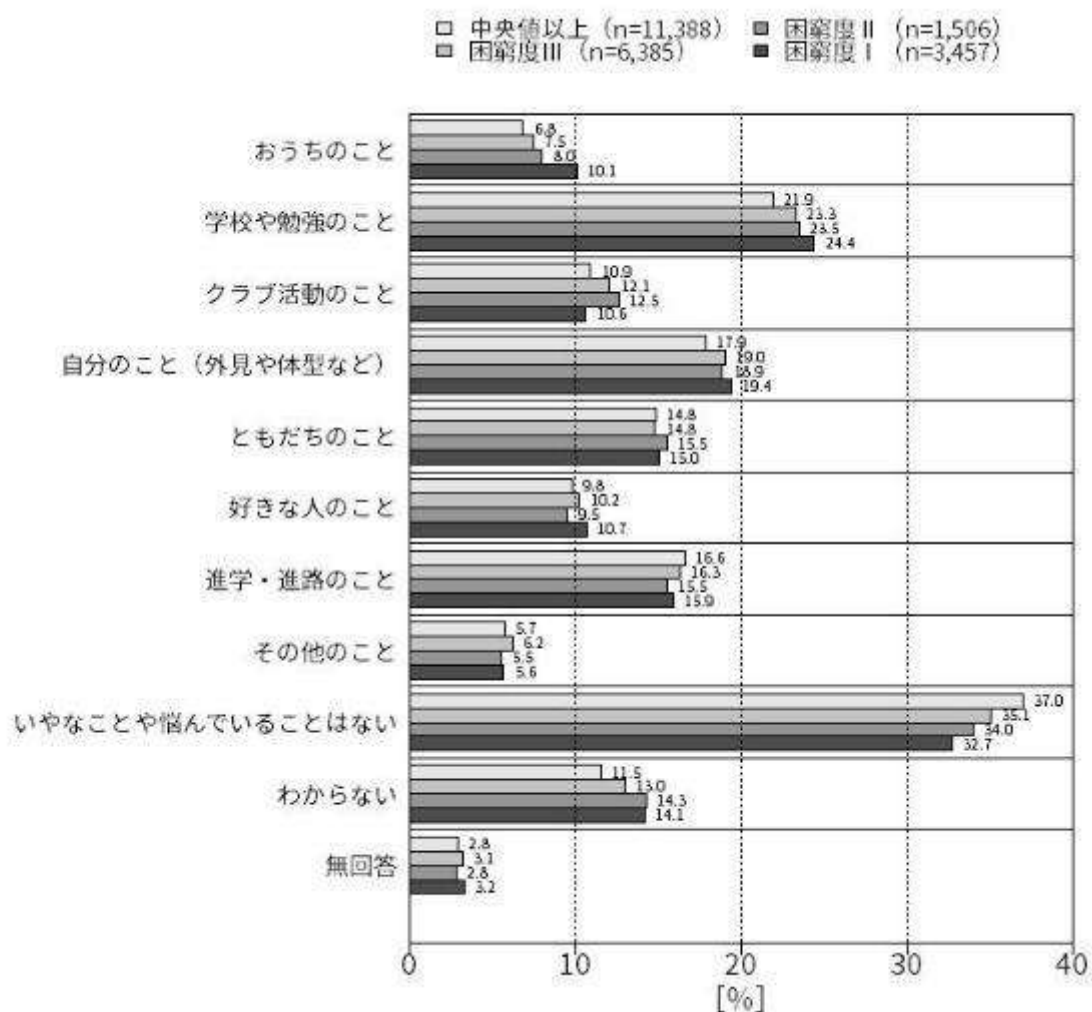


図 287. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、困窮度Ⅰ群で特に高いものは見られなかった。

困窮度別に見た、悩んでいること（子ども票 問 21）

<大阪市 24 区>



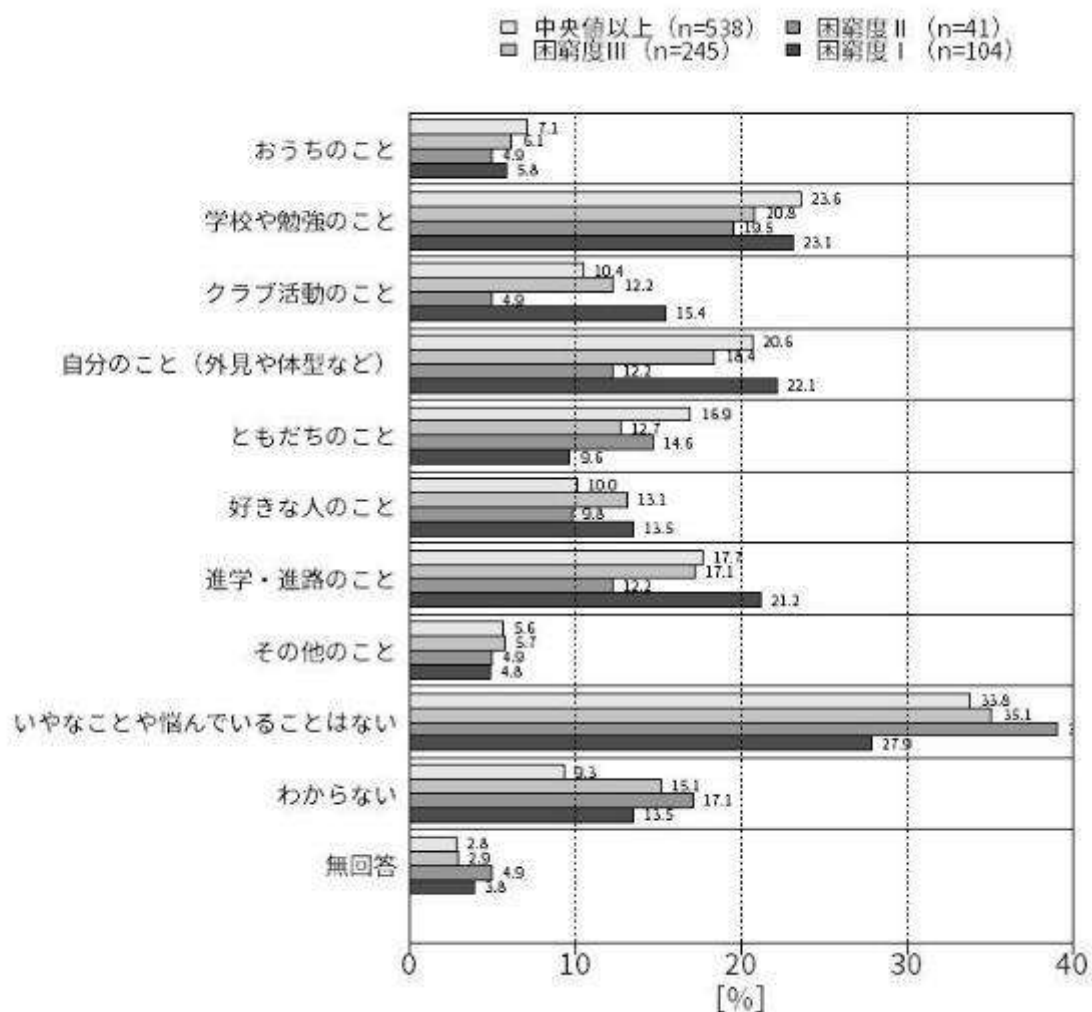
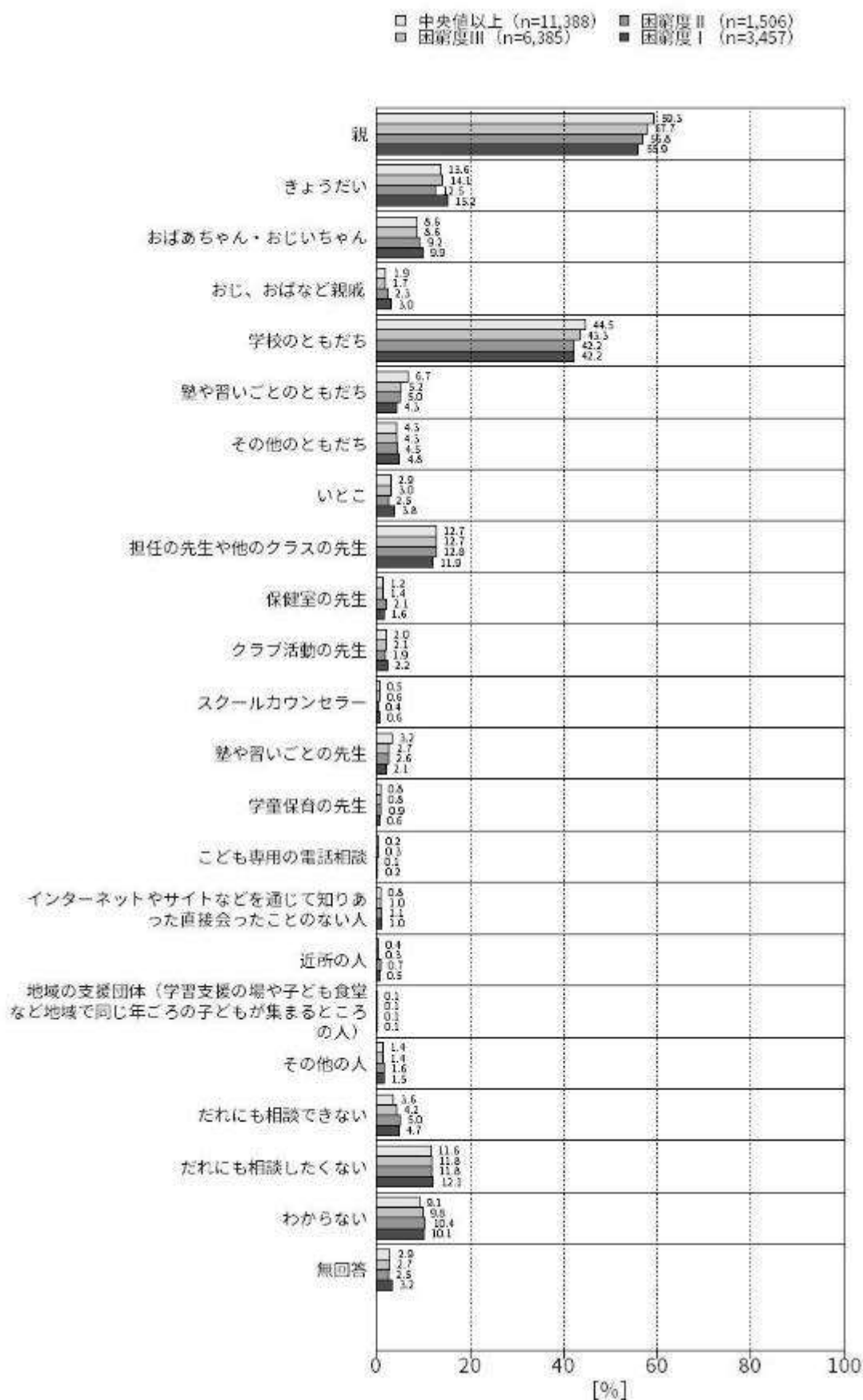


図 288. 困窮度別に見た、悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「クラブ活動のこと」15.4%（中央値以上群に対して、1.5倍）、「わからない」13.5%（1.5倍）、「好きな人のこと」13.5%（1.4倍）が高く、中央値以上群では「ともだちのこと」16.9%（困窮度Ⅰ群に対して、1.8倍）、「おうちのこと」7.1%（1.2倍）、「いやなことや悩んでいることはない」33.8%（1.2倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票 問 22）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

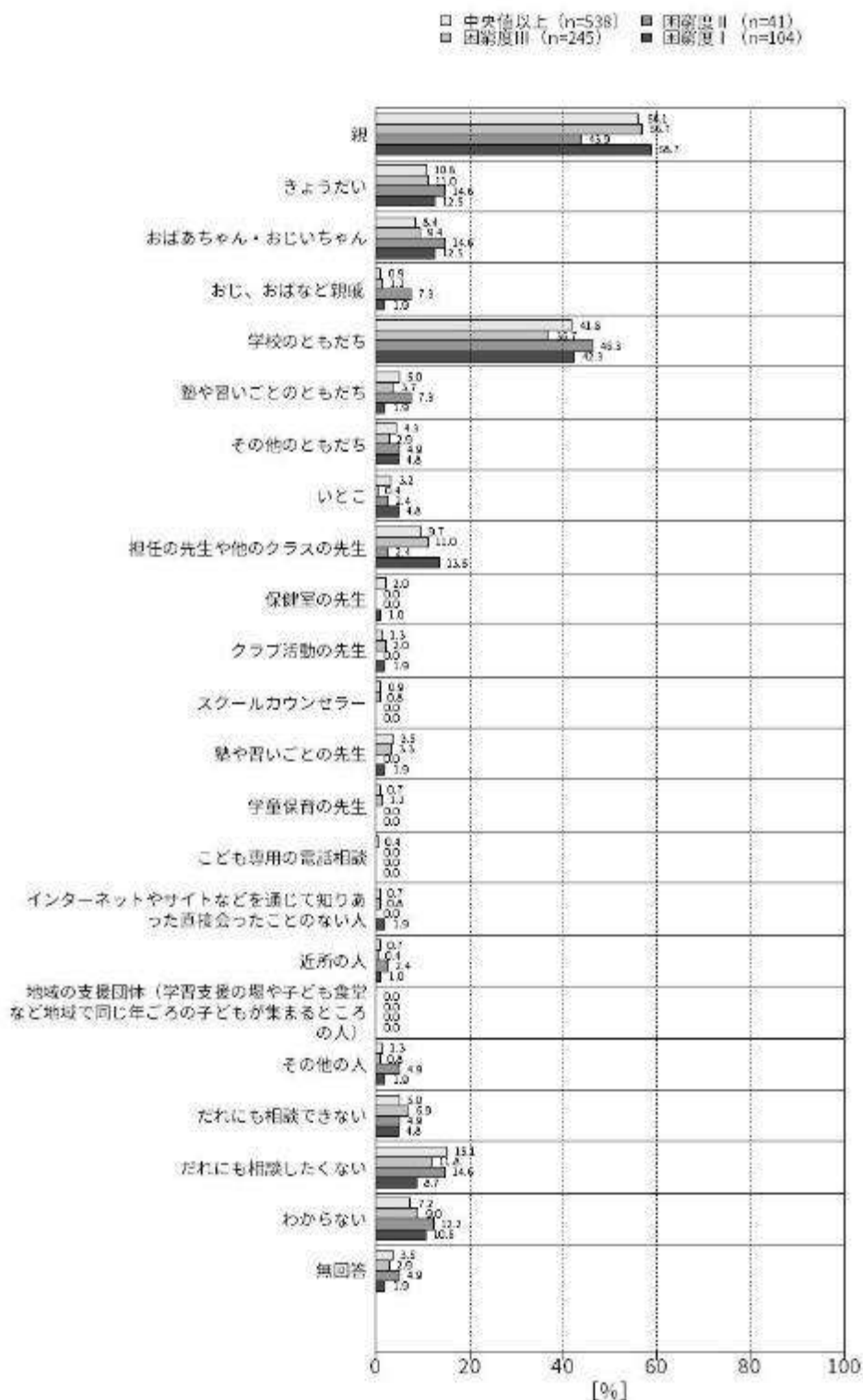
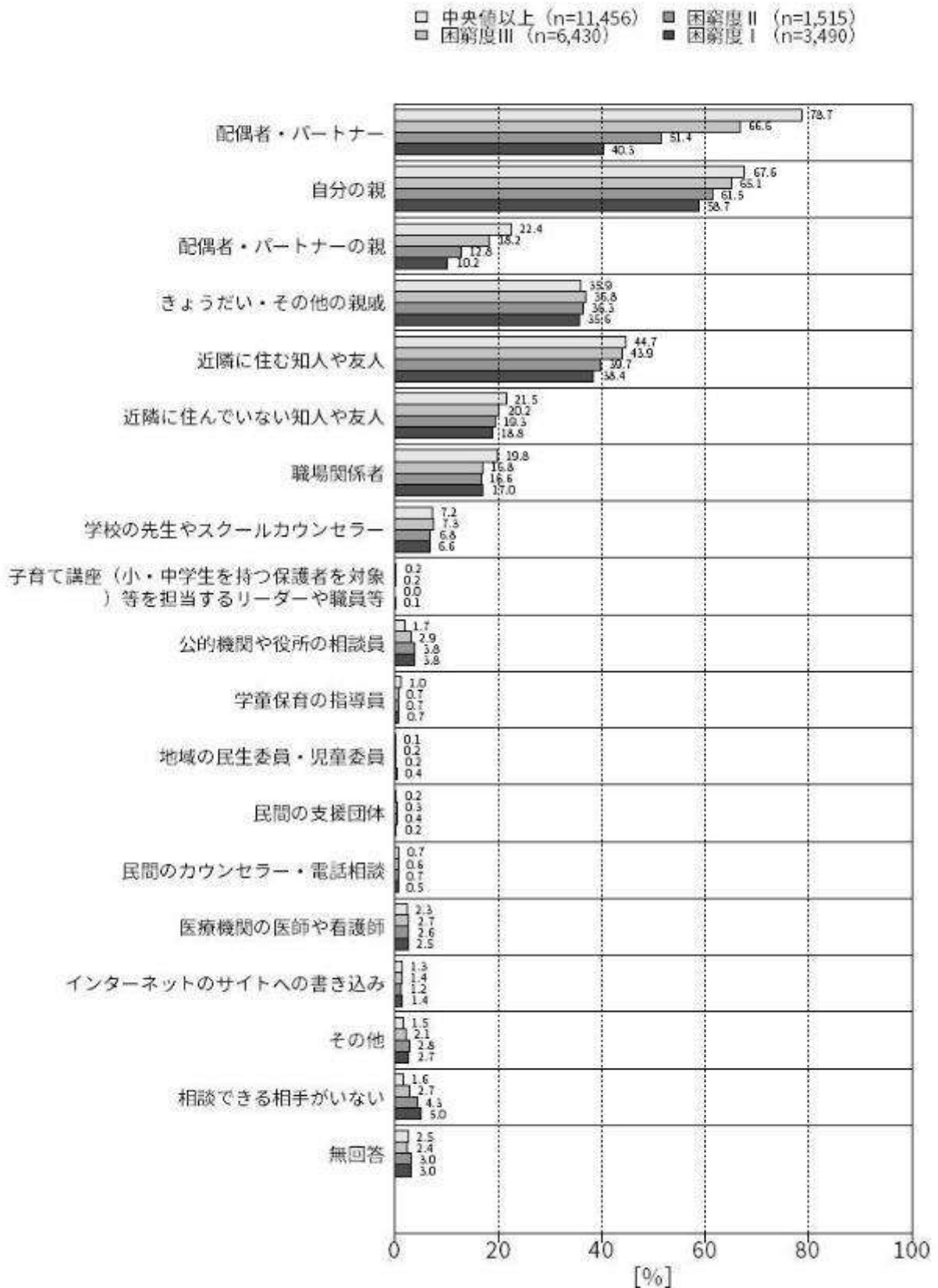


図 289. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人」1.9%（中央値以上群に対して、2.7倍）、「おじ、おばなど親戚」1.9%（2.1倍）、「いとこ」4.8%（1.5倍）が高かった。

困窮度別に見た、困ったときの相談先（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

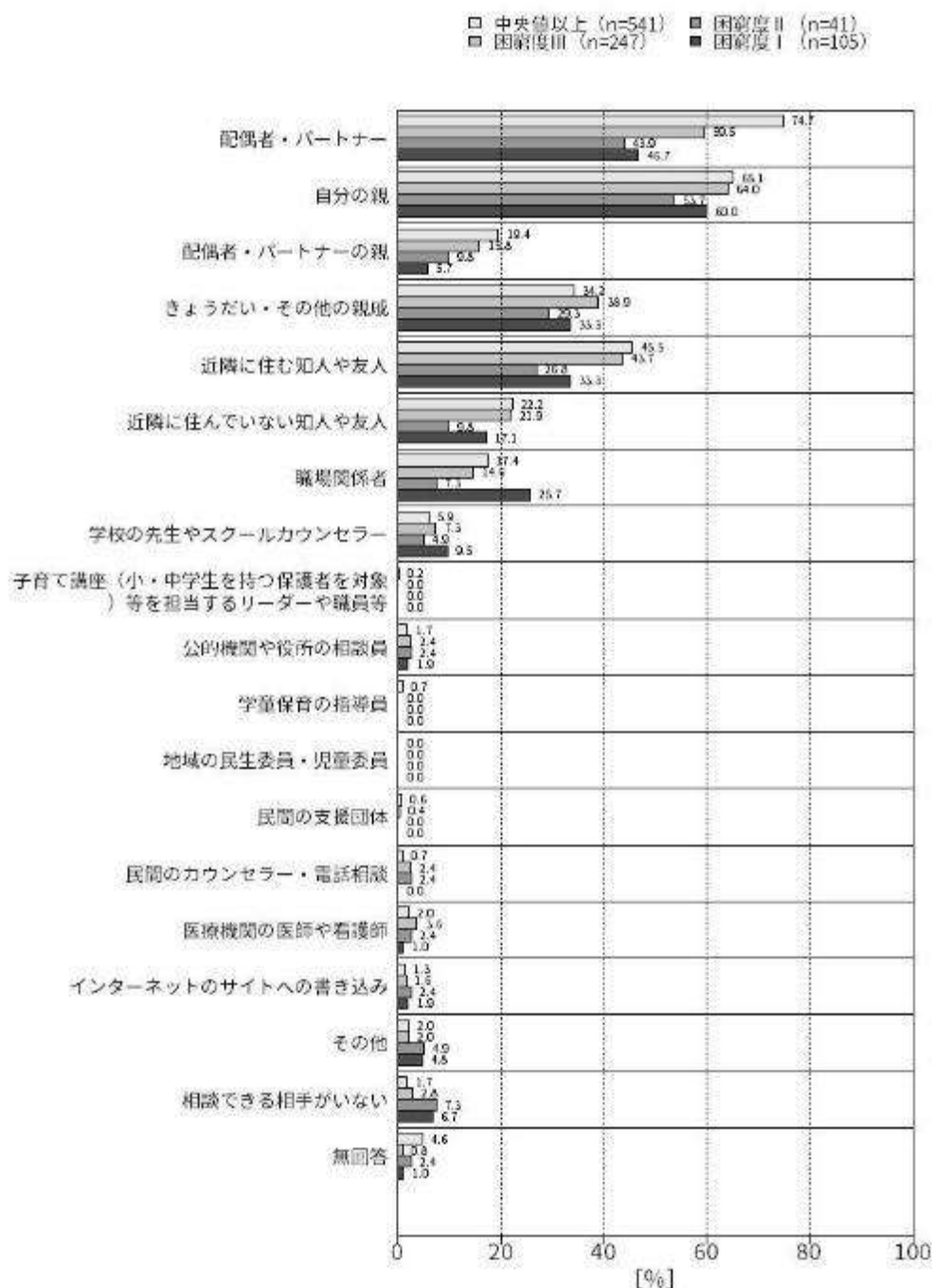
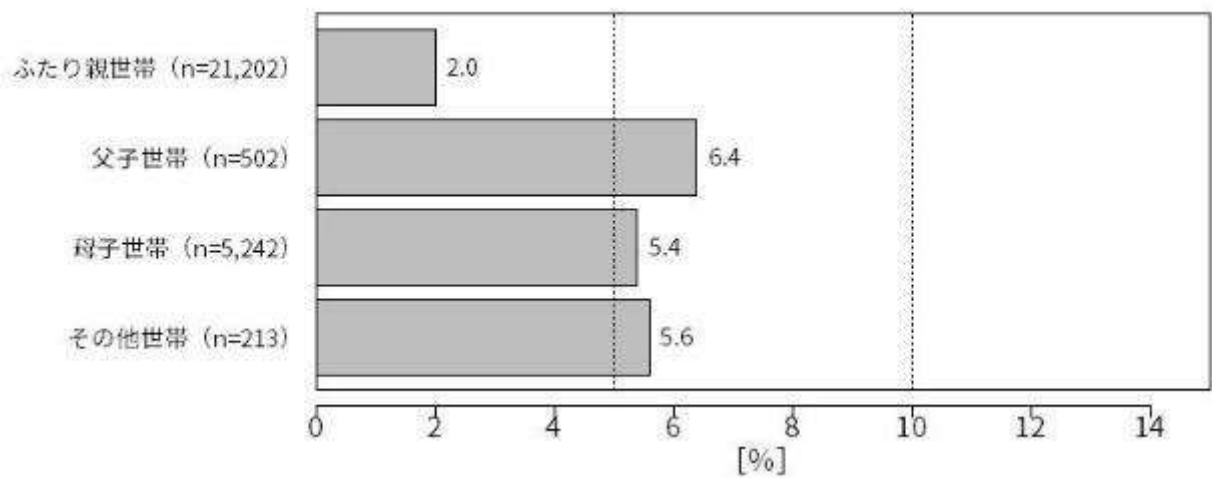


図 290. 困窮度別に見た、困ったときの相談先

困窮度別に保護者の困ったときの相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「相談できる相手がいない」6.7%（中央値以上群に対して、3.9倍）、「その他」4.8%（2.4倍）、「学校の先生やスクールカウンセラー」9.5%（1.6倍）が高かった。さらに、中央値以上群では「配偶者・パートナー」と回答した割合が74.7%だったのに対して、困窮度Ⅰ群では46.7%だった。

世帯構成別に見た、相談相手のいない割合（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

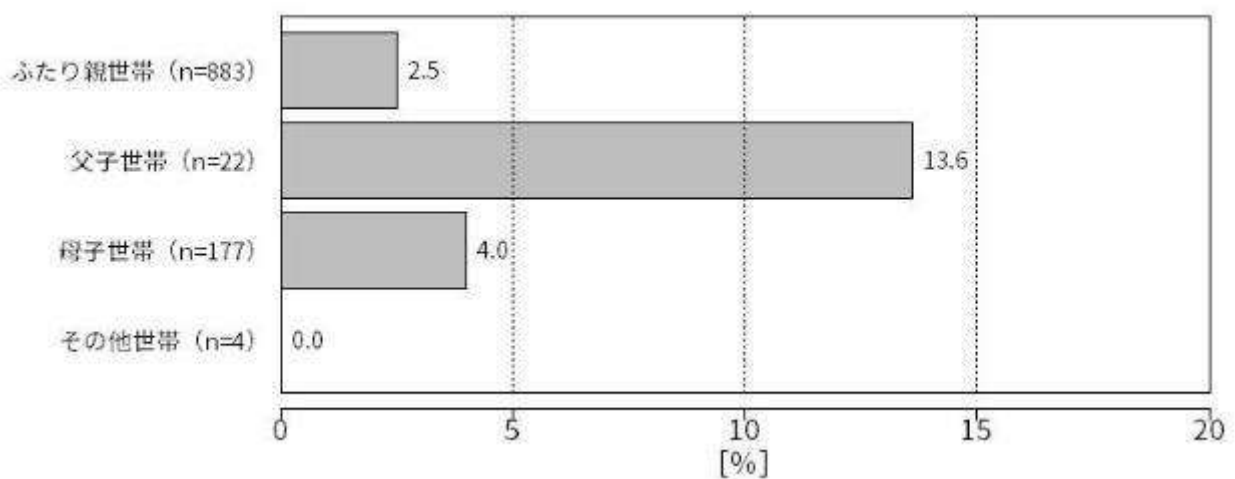


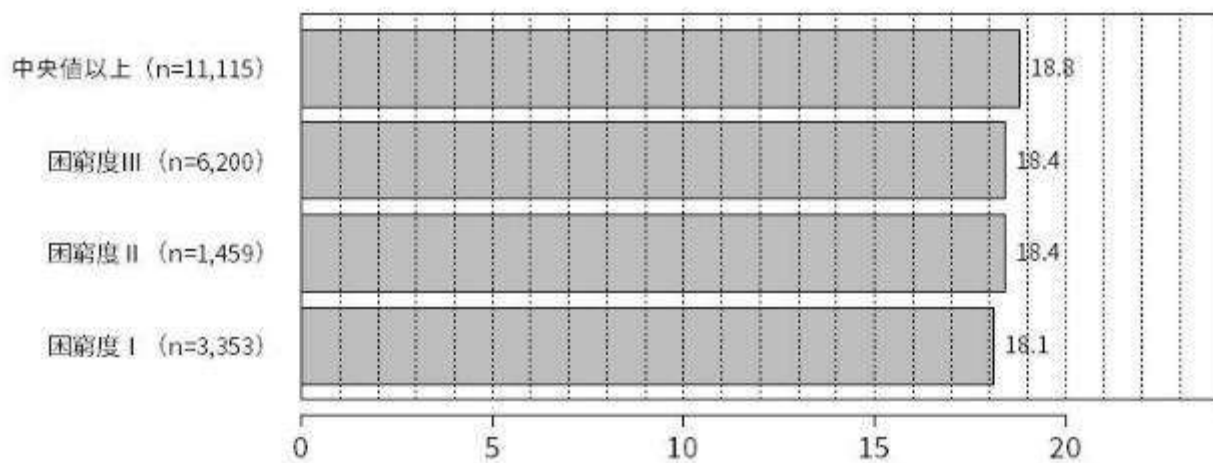
図 291. 世帯構成別に見た、相談相手のいない割合

世帯構成別に保護者の困ったときの相談先を見ると、「相談相手がいない」と回答した人は、ふたり親世帯で 2.5%、父子世帯で 13.6%、母子世帯で 4%いる。

困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー（子ども票 問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

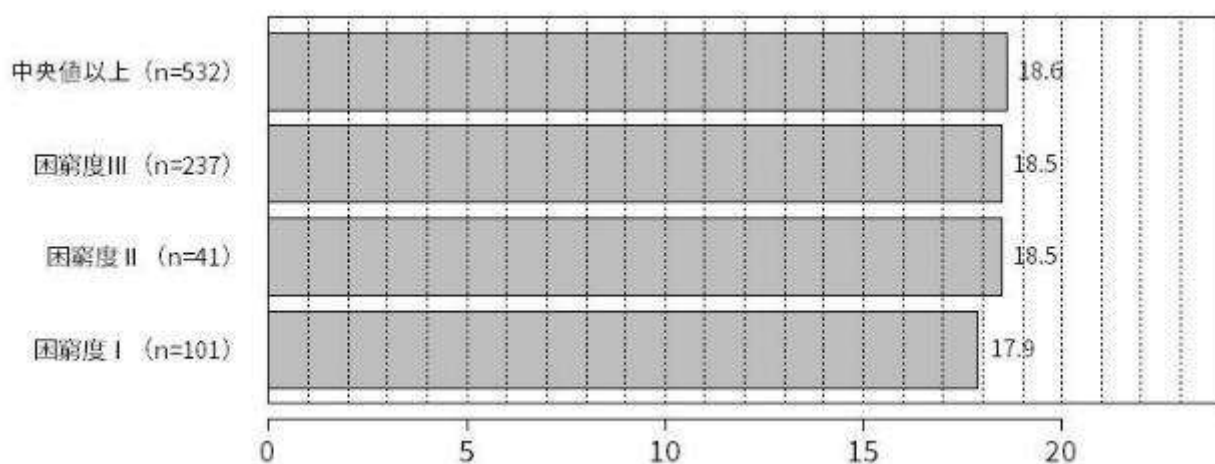


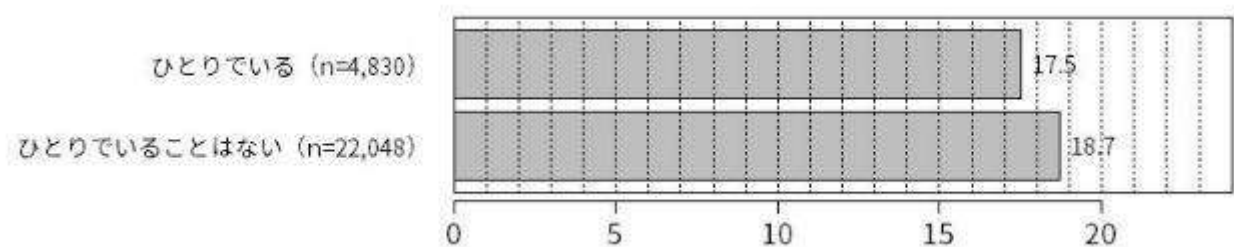
図 292. 困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均値は、中央値以上群で 18.6 点、困窮度Ⅲ群で 18.5 点、困窮度Ⅱ群で 18.5 点、困窮度Ⅰ群で 17.9 点であった。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー
(子ども票 問 12 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

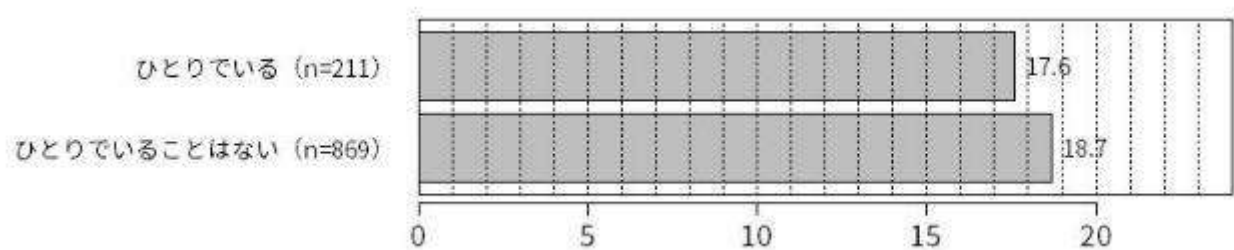


図 293. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、放課後ひとりで過ごす子どもの方は 17.6 点、ひとりであることはない子どもは 18.7 点であった。

困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 22 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

※「あなたは、いやなことや悩んでいることがあるとき、だれかに相談しますか。(だれに話しますか。)」に対し、以下のようにまとめた。

家族・親戚に相談：「親」「きょうだい」「おばあちゃん・おじいちゃん」「おじ・おばなど親戚」

「いとこ」のうち1つ以上に回答した人

ともだちに相談：「学校のともだち」「塾や習い事のともだち」「その他のともだち」のうち1つ以上に回答した人

先生に相談する：「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」「クラブ活動や部活の先生」

のうち1つ以上に回答した人

「スクールカウンセラー」「塾や習いごとの先生」「学童保育、児童いきいき放課後事業の先生」

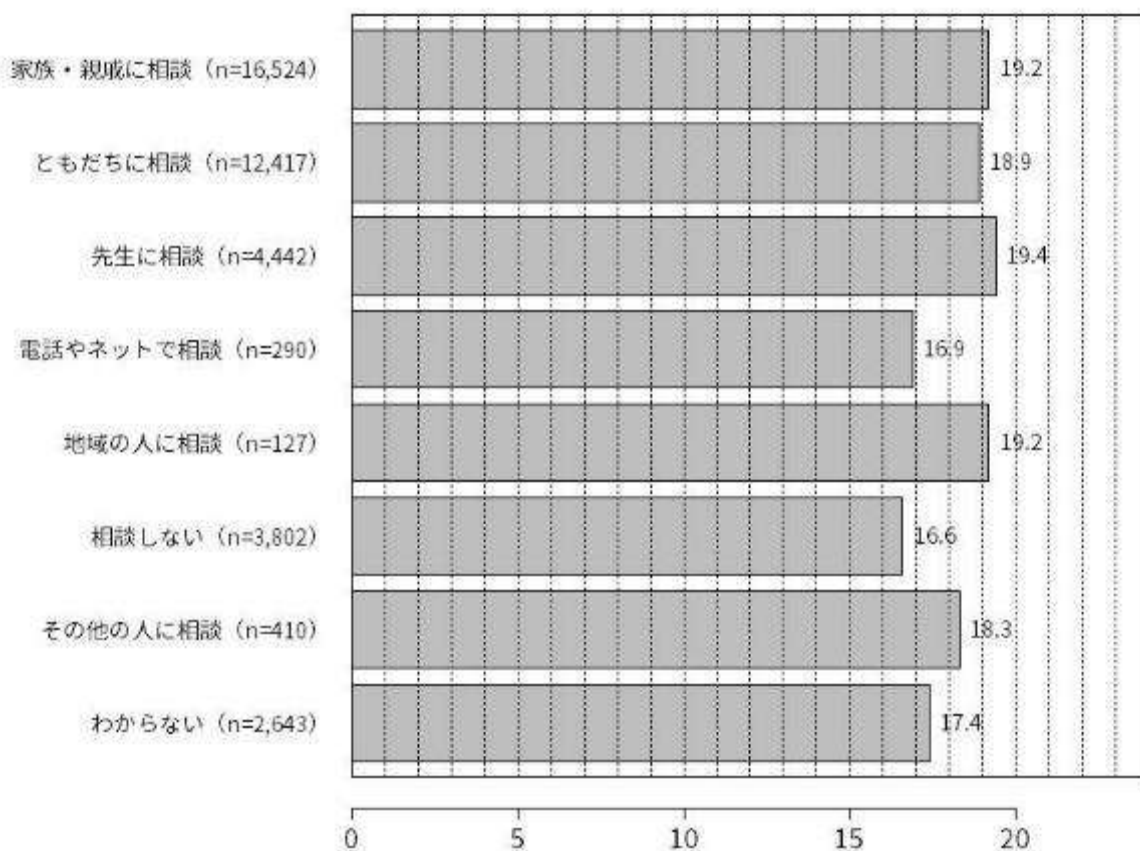
のうち1つ以上に回答した人

電話やネットで相談する群：「子ども専用の電話相談」「インターネットやサイトを通じて知り合った直接会ったことのない人」のうち1つ以上に回答した人

地域の人に相談する群：「近所の人」「地域の支援団体」のうち1つ以上に回答した人

相談しない群：「だれにも相談できない」「だれにも相談したくない」のうち1つ以上に回答した人

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

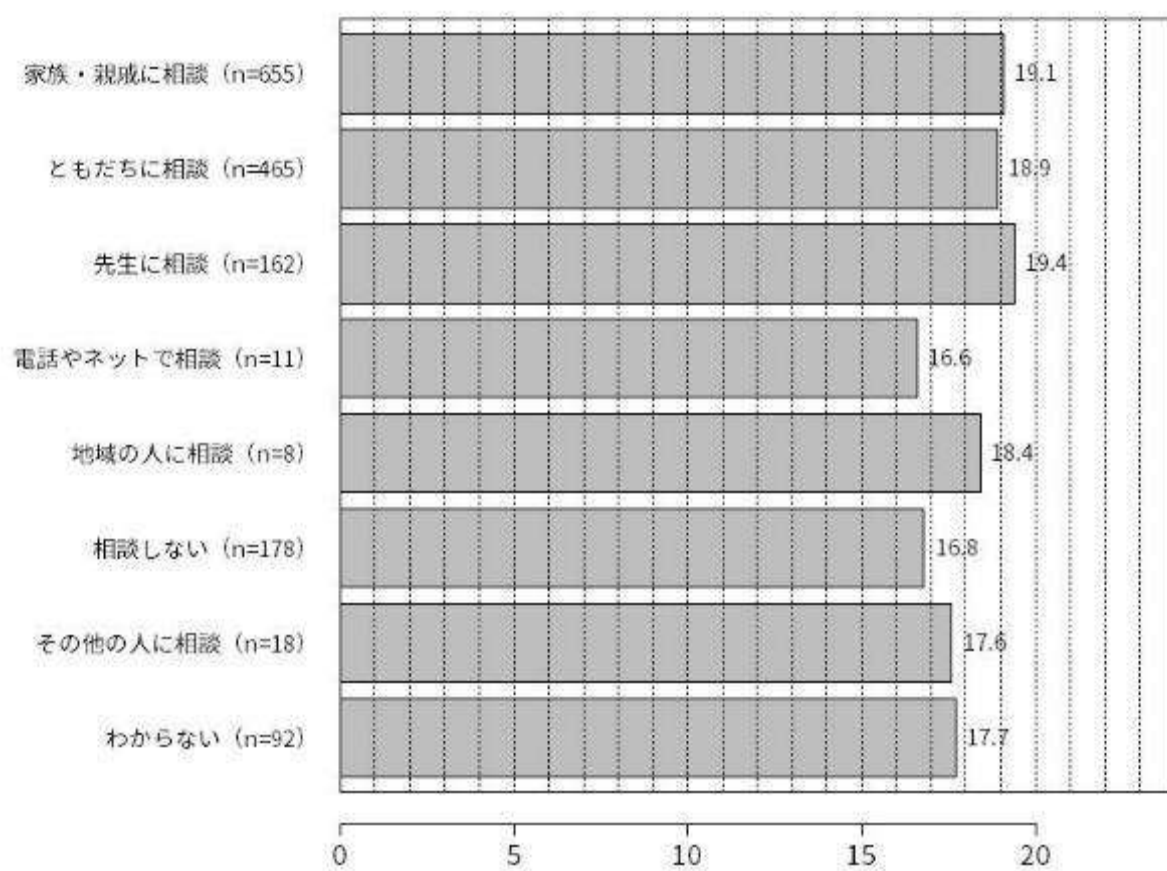


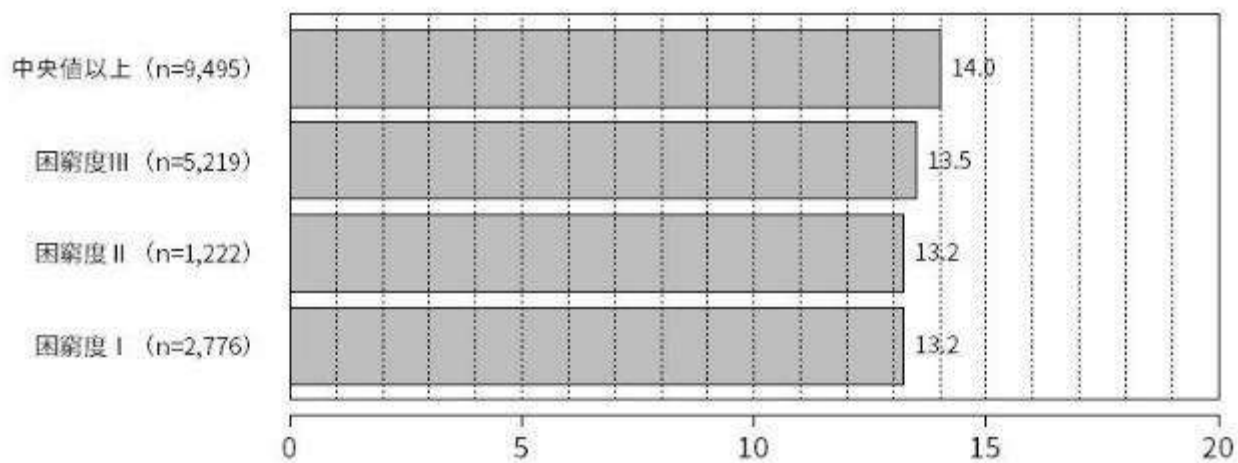
図 294. 困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）によって子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、低い順に「電話やネットで相談」16.6点、「相談しない」16.8点、「その他の人に相談」17.6点であった。

困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー（保護者票 問 29①～⑤）

※保護者のセルフ・エフィカシーについては図 197 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

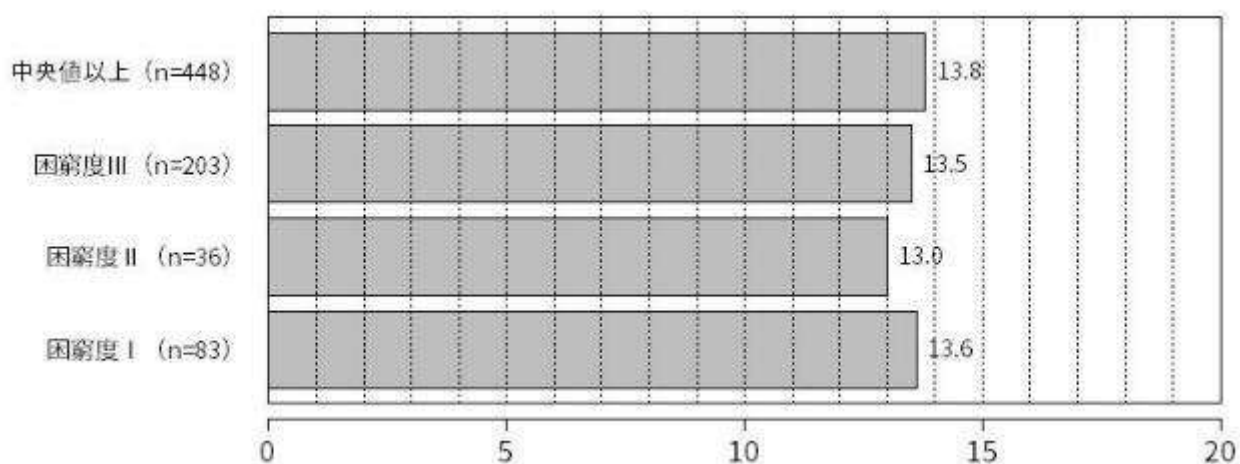


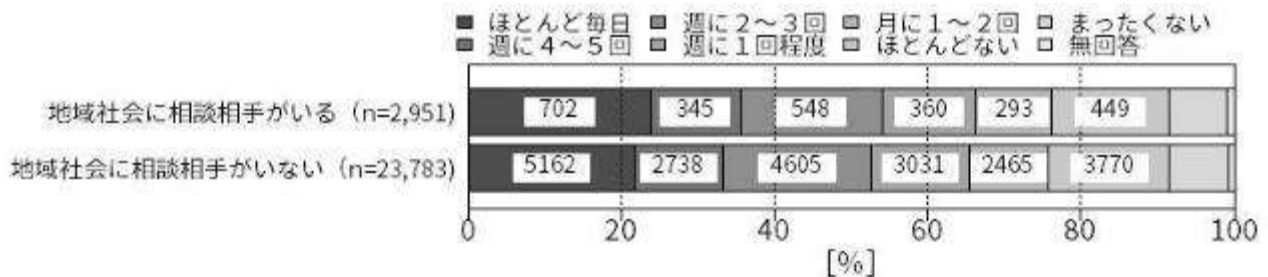
図 295. 困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー

困窮度別に保護者の自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、中央値以上群で 13.8 点、困窮度Ⅰ群で 13.6 点であった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(家の手伝いをするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10④)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

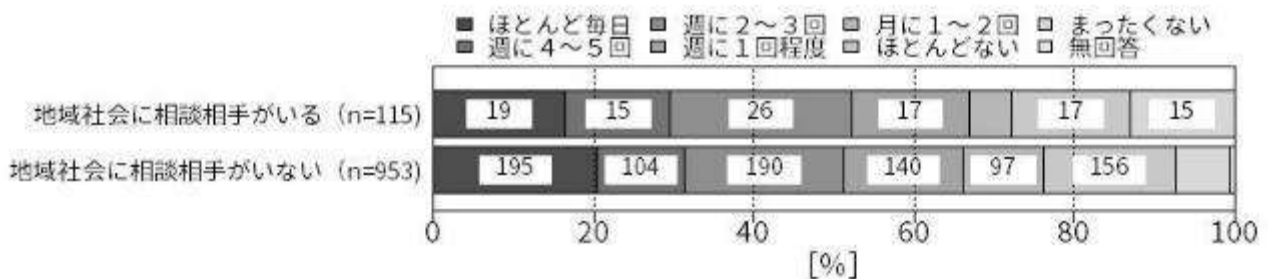


図 296. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(家の手伝いをするか)

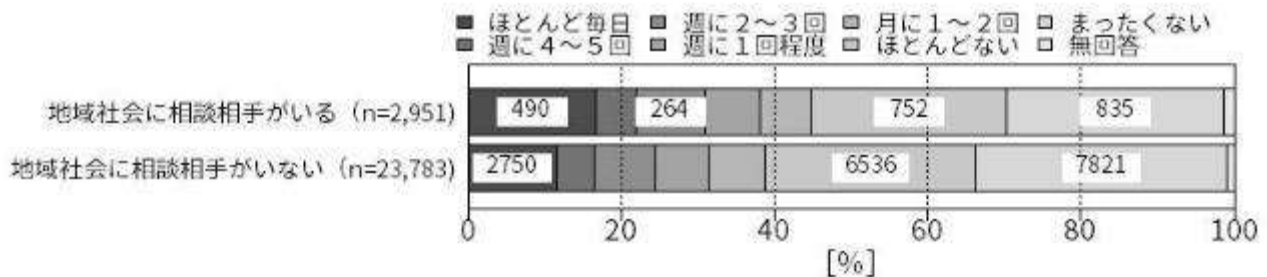
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（家の手伝いをするか）を見ると、「地域社会に相談相手がない」人の方が、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、子どもが「おうちの手伝いをするか」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

（おうちの大人に宿題をみてもらうか）（保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑤）

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

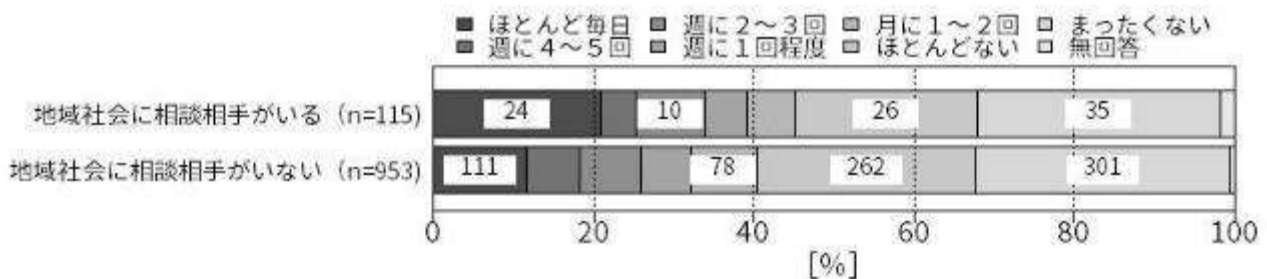


図 297. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

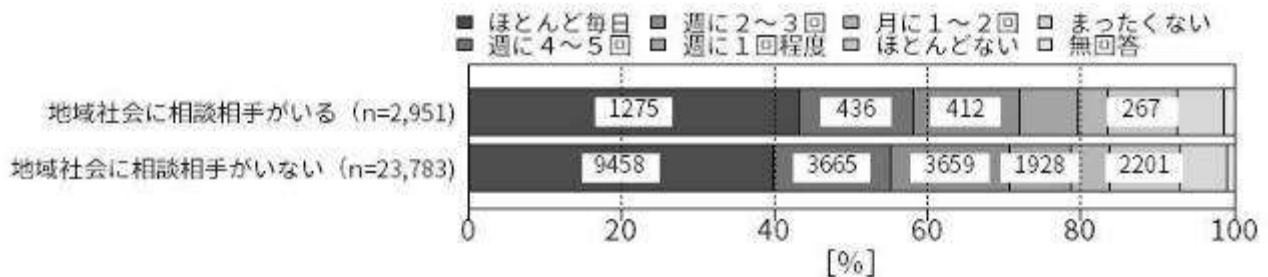
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっている」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と学校の話をするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑥)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

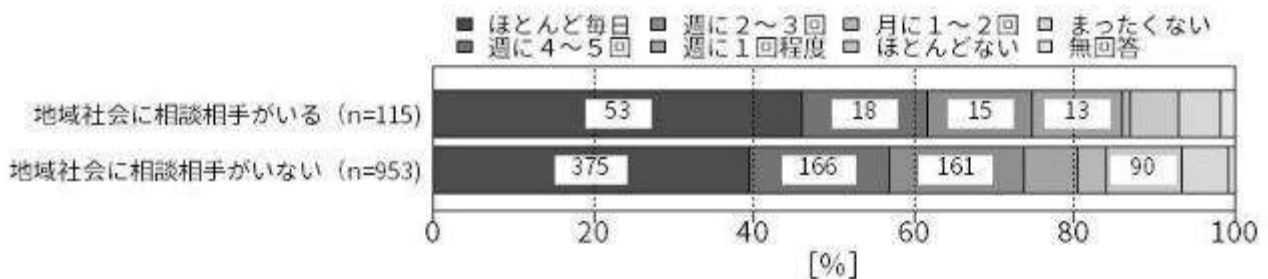


図 298. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と学校の話をするか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人のひとと学校のできごとについて話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑦)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

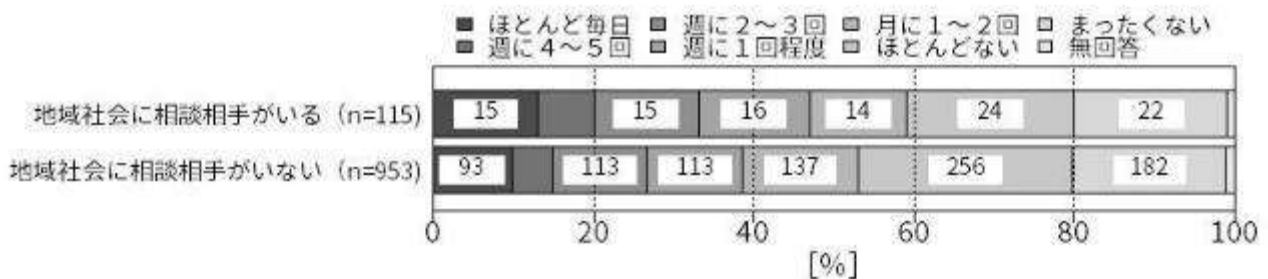


図 299. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」か「地域社会に相談相手がない」かによって、子どもが「おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりする」に差はなかった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と社会のできごとを話すか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑧)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照

<大阪市 24 区>



<大阪市都島区>

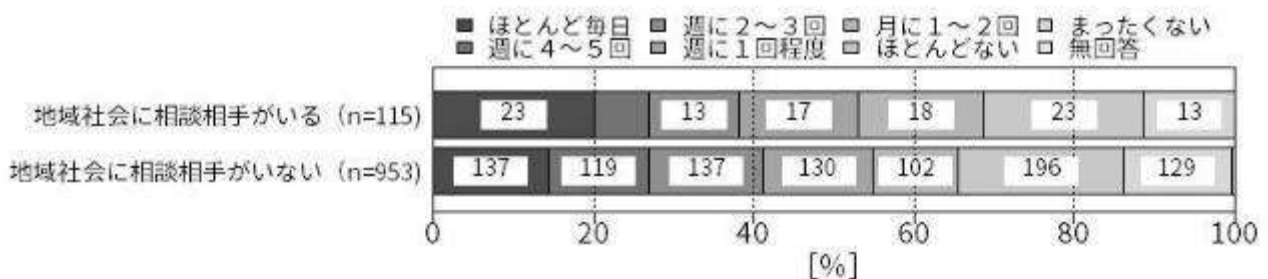


図 300. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と社会のできごとを話すか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「ニュースなど社会のできごとを話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。